

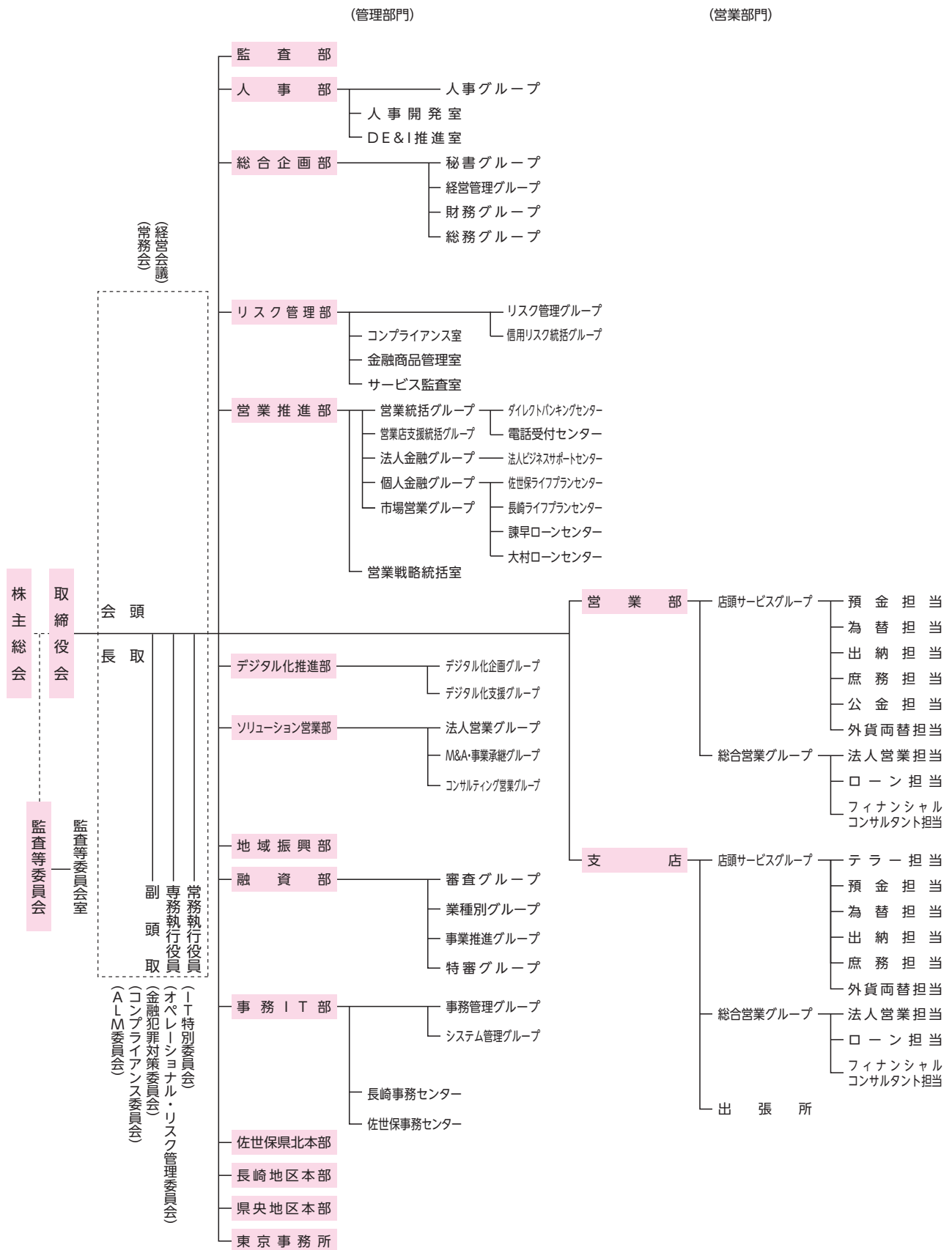
THE JUHACHI-SHINWA BANK

十八親和銀行
財務データ編

CONTENTS

組織図	273
役員	274
株式の状況・銀行代理業務の概要	275
単体情報	
事業の概況	275
主要な経営指標等の推移	276
財務諸表	277
財務諸表に係る確認書	293
損益の状況	294
預金	297
貸出金等	298
有価証券	300
不良債権、引当等	301
時価等情報	302
資産査定等報告書	306
自己資本の充実の状況等について	307
報酬等に関する開示事項（単体）	330

組織図



2024年7月1日現在

役員

取締役会長（代表取締役）	もり 森	たく 拓	じ 二	ろう 郎	取締役頭取（代表取締役）	やま 山	かわ 川	のぶ 信	ひこ 彦
取締役副頭取（代表取締役）	こ 小	ばやし 林	さとる 智		取締役専務執行役員	ふじ 藤	の 野	けい 啓	すけ 介
取締役専務執行役員	やま 山	ぐち 口	やす 康	ひろ 博	取締役常務執行役員	おお 大	ぐし 串	ゆう 祐	いち 一
取締役（非業務執行取締役）	はし 橋	づめ 爪	まさ 政	ひろ 博	取締役（監査等委員・常勤）	さか 酒	い 井	とし 利	あき 明
取締役（監査等委員・社外）	なが 永	もと 元	た 太	ろう 郎	取締役（監査等委員・社外）	た 田	なか 中	けいの 桂之助	すけ
常務執行役員	しも 下	だ 田	よし 義	たか 孝	常務執行役員	つや 艶	しま 島	ひろし 博	
常務執行役員	おび 帯	た 田	ひで 英	とし 俊	常務執行役員	あ 安	だち 達	きよし 圭	
執行役員（佐世保県北本部長）	いわ 岩	さき 崎	つち 土	や 弥	執行役員（総合企画部長）	の 野	だ 田	まさ 勝	とも 丈
執行役員（佐世保本店営業部長兼佐世保中央支店長）	たに 谷	ぐち 口	せい 誠	いちろう 一郎	執行役員（本店営業部長兼長崎営業部長）	み 三	うら 浦	よし 芳	お 生
執行役員	かき 柿	もと 本		おさむ 修					

株式の状況・銀行代理業務の概要

(2024年3月31日現在)

1. 大株主

(単位：千株、%)

氏名又は名称	住所	所有株式数	発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する所有株式数の割合
株式会社ふくおかフィナンシャルグループ	福岡市中央区大手門一丁目8番3号	2,749,032	100.00

(注) 株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。

2. 所有者別状況

区 分	株式の状況（1単元の株式数1,000株）							単元未満株式の状況（株）
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計
					個人以外	個人		
株主数（人）	－	－	－	1	－	－	－	1
所有株式数（単元）	－	－	－	2,749,032	－	－	－	2,749,032
所有株式数の割合（%）	－	－	－	100.00	－	－	－	100.00

■銀行代理業務の概要

当行を所属銀行とする銀行代理業者に関する事項

氏名又は名称	主たる営業所又は事務所の所在地	銀行代理業以外の主要業務	銀行代理業を営む店舗数
株式会社福岡銀行	福岡市中央区天神二丁目13番1号	銀行業	2
iBankマーケティング株式会社	福岡市中央区西中洲6番27号	情報処理・情報通信サービス業務	1

(注) 福岡銀行についてはP44～P47の店舗一覧に当行の銀行代理業を営む店舗及び事務所の表示をしております。

単体情報

事業の概況

当事業年度の経営成績につきましては、以下のとおりとなりました。

コア業務純益は、資金利益の増加等により前年比29億4千9百万円増加し、191億4千9百万円となりました。また、経常利益は、前年比52億6千5百万円増加し、138億2千7百万円となりました。当期純利益は、前年比31億4千9百万円増加し、105億2千3百万円となりました。

預金等（譲渡性預金を含む。）は、前年比355億円減少し、5兆6,304億円となりました。

貸出金は、前年比1,273億円減少し、4兆824億円となりました。

有価証券は、前年比2,196億円増加し、1兆4,710億円となりました。

主要な経営指標等の推移

単体ベース

		2019年度		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		十八銀行	親和銀行	十八親和銀行	十八親和銀行	十八親和銀行	十八親和銀行
経常収益	百万円	34,202	29,600	45,420	63,210	67,993	80,913
経常利益又は経常損失(△)	百万円	△10,303	△1,982	39	11,733	8,562	13,827
当期純利益又は当期純損失(△)	百万円	△10,648	△3,834	2,143	10,850	7,374	10,523
持分法を適用した場合の投資利益	百万円		—		—	—	—
資本金	百万円	24,404	36,878	36,878	36,878	36,878	36,878
発行済株式総数	千株	17,130	2,749,032	2,749,032	2,749,032	2,749,032	2,749,032
純資産額	百万円	149,945	120,801	279,641	269,040	256,246	270,777
総資産額	百万円	3,032,058	2,813,336	6,365,070	6,541,449	7,493,241	8,060,172
預金残高	百万円	2,600,487	2,247,932	5,255,759	5,476,134	5,500,553	5,546,031
貸出金残高	百万円	2,053,513	1,797,878	4,130,724	3,369,893	4,209,849	4,082,471
有価証券残高	百万円	741,222	519,073	1,193,368	1,191,232	1,251,389	1,471,038
1株当たり純資産額	円	8,753.22	43.94	101.72	97.86	93.21	98.49
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	円 (円)	229.38 (69.00)	0.75 (0.35)	2.27 (1.42)	1.91 (0.50)	1.10 (0.50)	6.25 (0.65)
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	円	△621.60	△1.39	0.77	3.94	2.68	3.82
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	円	—	—	—	—	—	—
自己資本比率	%	4.94	4.29	4.39	4.11	3.41	3.35
単体自己資本比率 (国内基準)	%	10.83	9.53	10.00	9.35	9.00	10.31
自己資本利益率	%	△6.82	△3.02	1.07	3.95	2.80	3.99
株価収益率	倍	—	—	—	—	—	—
配当性向	%	—	—	192.33	48.58	41.00	163.26
営業活動による キャッシュ・フロー	百万円		△123,025		666,159	△455,205	1,526,441
投資活動による キャッシュ・フロー	百万円		58,096		△25,114	△96,466	△177,199
財務活動による キャッシュ・フロー	百万円		△1,786		△3,711	△3,161	△3,436
現金及び現金同等物の 期末残高	百万円		428,229		1,577,251	1,022,426	2,368,249
従業員数 (外、平均臨時従業員数)	人	1,240 [533]	1,148 [495]	2,340 [679]	2,074 [809]	1,945 [759]	1,892 [766]

- (注) 1.2020年10月1日に親和銀行と十八銀行が合併し、十八親和銀行となりました。2019年度の計数は、両行の計数を併記しております。
2.2023年度中間配当についての取締役会決議は2023年11月13日に行いました。
3.潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式がないので記載しておりません。
4.自己資本比率は、期末純資産の部の合計を期末資産の部の合計で除して算出しております。
5.単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は国内基準を採用しております。なお、2023年3月末からパーゼルⅢ最終化の早期適用をしております。
6.株価収益率、株主総利回り、比較指標、最高株価及び最低株価については、当行は上場していないため記載しておりません。
7.2019年度の配当性向は、当該年度の利益が当期純損失となっているため記載しておりません。
8.平均臨時従業員数は、銀行業の所定労働時間に換算し算出しております。
9.親和銀行及び2021年度以降の持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。

※ここに掲載しております財務諸表は、会社法第396条第1項の規定に基づき、EY新日本有限責任監査法人の監査証明を受けております。

財務諸表

■貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	2022年度 金 額	2023年度 金 額
[資産の部]		
現 金 預 け 金 ※4	1,022,925	2,368,884
現 金	59,290	63,978
預 け 金	963,635	2,304,905
コ ー ル ロ ー ン	878,269	295
買 入 金 銭 債 権	142	187
商 品 有 価 証 券	307	158
商 品 国 債	24	10
商 品 地 方 債	283	147
金 銭 の 信 託	10,000	9,892
有 価 証 券 ※1,2,4,5	1,251,389	1,471,038
国 債	485,495	646,649
地 方 債	77,301	74,386
社 債 ※9	205,257	157,532
株 式	40,735	56,657
そ の 他 の 証 券	442,599	535,811
貸 出 金 ※2,4,5	4,209,849	4,082,471
割 引 手 形 ※3	7,163	7,769
手 形 貸 付	91,805	87,390
証 書 貸 付	3,822,421	3,669,887
当 座 貸 越	288,459	317,422
外 国 為 替 ※2	8,211	4,670
外 国 他 店 預 け	8,206	4,670
買 入 外 国 為 替 ※3	4	—
そ の 他 資 産 ※2	50,220	65,064
前 払 費 用	175	155
未 収 収 益	5,514	7,921
金 融 派 生 商 品	9,594	18,558
金融商品等差入担保金	30,100	35,914
そ の 他 の 資 産 ※4	4,835	2,515
有 形 固 定 資 産 ※7,8	60,206	60,087
建 物	12,328	12,086
土 地 ※6	40,272	39,269
リ ー ス 資 産	474	1,843
建 設 仮 勘 定	209	24
その他の有形固定資産	6,921	6,863
無 形 固 定 資 産	3,800	3,431
ソ フ ト ウ ェ ア	3,192	2,742
その他の無形固定資産	607	688
前 払 年 金 費 用	8,624	10,656
繰 延 税 金 資 産	14,115	11,020
支 払 承 諾 見 返 ※2	15,961	15,358
貸 倒 引 当 金	△40,782	△43,043
資 産 の 部 合 計	7,493,241	8,060,172

科 目	2022年度 金 額	2023年度 金 額
[負債の部]		
預 金 ※4	5,500,553	5,546,031
当 座 預 金	321,431	352,965
普 通 預 金	3,662,098	3,786,612
貯 蓄 預 金	72,285	73,949
通 知 預 金	7,530	3,691
定 期 預 金	1,368,911	1,281,815
そ の 他 の 預 金	68,296	46,997
譲 渡 性 預 金	165,429	84,427
コ ー ル マ ネ ー ※4	93,240	307,873
債券貸借取引受入担保金 ※4	200,401	386,240
借 用 金 ※4	1,231,455	1,400,448
借 入 金	1,231,455	1,400,448
外 国 為 替	236	107
売 渡 外 国 為 替	227	101
未 払 外 国 為 替	9	6
そ の 他 負 債	21,090	40,707
未 決 済 為 替 借	30	50
未 払 法 人 税 等	238	1,624
未 払 費 用	2,723	4,702
前 受 収 益	1,304	896
金 融 派 生 商 品	7,533	18,493
金融商品等受入担保金	5,955	8,567
リ ー ス 債 務	494	1,840
資 産 除 去 債 務	181	181
そ の 他 の 負 債	2,628	4,350
睡眠預金払戻損失引当金	1,294	1,059
株 式 給 付 引 当 金	10	20
再評価に係る繰延税金負債 ※6	7,320	7,121
支 払 承 諾	15,961	15,358
負 債 の 部 合 計	7,236,994	7,789,394
[純資産の部]		
資 本 金	36,878	36,878
資 本 剰 余 金	81,196	81,196
資 本 準 備 金	36,878	36,878
その他資本剰余金	44,318	44,318
利 益 剰 余 金	111,246	118,809
その他利益剰余金	111,246	118,809
固定資産圧縮積立金	122	122
土地特別積立金	91	91
別 途 積 立 金	50,000	50,000
繰越利益剰余金	61,032	68,595
株 主 資 本 合 計	229,321	236,884
その他有価証券評価差額金	6,094	11,265
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	851	3,123
土地再評価差額金 ※6	19,978	19,503
評価・換算差額等合計	26,924	33,892
純 資 産 の 部 合 計	256,246	270,777
負債及び純資産の部合計	7,493,241	8,060,172

財務諸表

■損益計算書			(単位：百万円)		
科 目	2022年度 金 額	2023年度 金 額	科 目	2022年度 金 額	2023年度 金 額
経 常 収 益	67,993	80,913	役 務 取 引 等 費 用	7,784	8,181
資 金 運 用 収 益	49,399	64,249	支 払 為 替 手 数 料	1,035	1,046
貸 出 金 利 息	32,177	32,664	その他の役務費用	6,748	7,135
有価証券利息配当金	14,433	21,980	そ の 他 業 務 費 用	11,683	3,755
コールローン利息	△132	△262	外国為替売却損	－	1,019
預 け 金 利 息	0	0	商品有価証券売買損	1	1
金利スワップ受入利息	1,789	8,759	国債等債券売却損	11,413	2,735
その他の受入利息	1,131	1,106	金融派生商品費用	268	－
役 務 取 引 等 収 益	12,803	14,025	営 業 経 費	32,555	32,730
受入為替手数料	2,924	2,873	そ の 他 経 常 費 用	1,274	4,132
その他の役務収益	9,878	11,152	貸倒引当金繰入額	－	3,050
そ の 他 業 務 収 益	513	871	貸 出 金 償 却	0	0
外国為替売買益	75	－	株 式 等 売 却 損	114	141
国債等債券売却益	436	458	株 式 等 償 却	311	－
国債等債券償還益	1	－	金銭の信託運用損	－	107
金融派生商品収益	－	413	その他の経常費用	848	833
そ の 他 経 常 収 益	5,277	1,767	経 常 利 益	8,562	13,827
貸倒引当金戻入益	3,213	－	特 別 利 益	224	307
償却債権取立益	－	15	固 定 資 産 処 分 益	224	307
株 式 等 売 却 益	1,424	1,337	特 別 損 失	596	901
金銭の信託運用益	279	－	固 定 資 産 処 分 損	281	442
その他の経常収益 ※1	359	413	減 損 損 失	315	458
経 常 費 用	59,431	67,085	税引前当期純利益	8,190	13,233
資 金 調 達 費 用	6,133	18,284	法人税、住民税及び事業税	△1,089	2,674
預 金 利 息	110	122	法 人 税 等 調 整 額	1,905	34
譲渡性預金利息	22	19	法 人 税 等 合 計	816	2,709
コールマネー利息	114	335	当 期 純 利 益	7,374	10,523
債券貸借取引支払利息	4,215	13,110			
借 用 金 利 息	2	4			
金利スワップ支払利息	108	1,485			
その他の支払利息	1,560	3,207			

財務諸表

■株主資本等変動計算書

2022年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金			
					固定資産 圧縮積立金	土地特別 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金
当期首残高	36,878	36,878	44,318	81,196	122	91	50,000	56,589
当期変動額								
剰余金の配当								△3,161
当期純利益								7,374
土地再評価差額金の取崩								228
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	－	－	－	－	－	－	－	4,442
当期末残高	36,878	36,878	44,318	81,196	122	91	50,000	61,032

	株主資本		評価・換算差額等				純資産合計
	利益剰余金	株主資本 合計					
	利益剰余金 合計		その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	106,804	224,879	23,289	663	20,207	44,160	269,040
当期変動額							
剰余金の配当	△3,161	△3,161					△3,161
当期純利益	7,374	7,374					7,374
土地再評価差額金の取崩	228	228					228
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			△17,195	188	△228	△17,236	△17,236
当期変動額合計	4,442	4,442	△17,195	188	△228	△17,236	△12,793
当期末残高	111,246	229,321	6,094	851	19,978	26,924	256,246

財務諸表

2023年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金			
					固定資産 圧縮積立金	土地特別 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金
当期首残高	36,878	36,878	44,318	81,196	122	91	50,000	61,032
当期変動額								
剰余金の配当								△3,436
当期純利益								10,523
土地再評価差額金の取崩								475
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	－	－	－	－	－	－	－	7,563
当期末残高	36,878	36,878	44,318	81,196	122	91	50,000	68,595

	株主資本		評価・換算差額等				純資産合計
	利益剰余金	株主資本 合計					
	利益剰余金 合計		その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	111,246	229,321	6,094	851	19,978	26,924	256,246
当期変動額							
剰余金の配当	△3,436	△3,436					△3,436
当期純利益	10,523	10,523					10,523
土地再評価差額金の取崩	475	475					475
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			5,171	2,272	△475	6,968	6,968
当期変動額合計	7,563	7,563	5,171	2,272	△475	6,968	14,531
当期末残高	118,809	236,884	11,265	3,123	19,503	33,892	270,777

財務諸表

■キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2022年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	2023年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
	金 額	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税 引 前 当 期 純 利 益	8,190	13,233
減 価 償 却 費	2,872	2,941
減 損 損 失	315	458
貸 倒 引 当 金 の 増 減 (△)	△4,199	2,261
前払年金費用の増減額 (△は増加)	△722	△2,032
睡眠預金払戻損失引当金の増減 (△)	△259	△235
株式給付引当金の増減額 (△は減少)	10	10
資 金 運 用 収 益	△49,399	△64,249
資 金 調 達 費 用	6,133	18,284
有 価 証 券 関 係 損 益 (△)	9,975	1,080
金銭の信託の運用損益 (△は運用益)	△279	107
為 替 差 損 益 (△ は 益)	△9	△18
固 定 資 産 処 分 損 益 (△ は 益)	56	135
貸 出 金 の 純 増 (△) 減	△839,956	127,378
預 金 の 純 増 減 (△)	24,419	45,478
譲 渡 性 預 金 の 純 増 減 (△)	30,344	△81,001
借入金 (劣後特約付借入金を除く) の純増減 (△)	816,735	168,992
預け金 (日銀預け金を除く) の純増 (△) 減	1,075	△135
コ ー ル ロ ー ン 等 の 純 増 (△) 減	△581,621	877,928
コ ー ル マ ネ ー 等 の 純 増 減 (△)	32,918	214,632
債券貸借取引受入担保金の純増減 (△)	47,518	185,838
外国為替 (資産) の純増 (△) 減	△4,902	3,540
外国為替 (負債) の純増減 (△)	82	△129
資 金 運 用 に よ る 収 入	48,442	61,229
資 金 調 達 に よ る 支 出	△4,641	△16,312
そ の 他	2,311	△33,720
小 計	△454,587	1,525,697
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△618	743
営 業 活 動 に よ る キャッシュ・フ ロー	△455,205	1,526,441
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有 価 証 券 の 取 得 に よ る 支 出	△361,037	△398,563
有 価 証 券 の 売 却 に よ る 収 入	161,475	67,725
有 価 証 券 の 償 還 に よ る 収 入	104,515	154,966
有形固定資産の取得による支出	△1,248	△1,228
有形固定資産の売却による収入	593	799
無形固定資産の取得による支出	△765	△899
投 資 活 動 に よ る キャッシュ・フ ロー	△96,466	△177,199
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配 当 金 の 支 払 額	△3,161	△3,436
財 務 活 動 に よ る キャッシュ・フ ロー	△3,161	△3,436
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	18
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△554,824	1,345,823
現金及び現金同等物の期首残高	1,577,251	1,022,426
現金及び現金同等物の期末残高 ※1	1,022,426	2,368,249

財務諸表

注記事項（2023年度）

（重要な会計方針）

1.商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）により行っております。

2.有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価は、その他有価証券については時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。

また、外貨建その他有価証券(債券)の換算差額については、外国通貨による時価を決算時の為替相場で換算した金額のうち、外国通貨による時価の変動に係る換算差額(外貨ベースでの評価差額を決算時の直物為替相場で換算した金額)を評価差額とし、それ以外の差額については為替差損益として処理しております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

3.デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

4.固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

建物については、定額法、その他の有形固定資産については、定率法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物 3年～50年

その他 3年～20年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、原則としてリース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

5.外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、決算日の為替相場による円換算額を付しております。

6.引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下、「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下、「実質破綻先」という。）に係る債権については、帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下、「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者と与信額が一定額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができるとする債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

上記以外の債権については、景気予測に基づくデフォルト率を正常先10区分、要注意先6区分、破綻懸念先1区分の計17区分で推計し、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

(2) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（9年）による定額法により損益処理

数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（9年～10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生時の翌事業年度から損益処理

(3) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り、必要と認める額を計上しております。

(4) 株式給付引当金

株式給付引当金は、取締役等への株式報酬制度における報酬支払いに備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額を計上しております。

7.ヘッジ会計の方法

(1) 金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の（残存）期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。

(2) 為替変動リスク・ヘッジ

外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号 2020年10月8日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨ス

財務諸表

ワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

なお、一部の資産・負債については、金利スワップの特例処理を行っています。

8. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。

9. グループ通算制度の適用

当行は、グループ通算制度を適用しております。

10. 関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続

投資信託の解約・償還に伴う損益について、期中収益分配金等を含めた投資信託全体で利益の場合は「有価証券利息配当金」に計上し、損失の場合はその金額を「その他業務費用」の国債等債券償還損に計上しております。

(重要な会計上の見積り)

会計上の見積りにより当事業年度に係る財務諸表にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

貸倒引当金

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

貸倒引当金 43,043百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

① 算出方法

貸倒引当金の算出方法は、「(重要な会計方針)6. 引当金の計上基準」の「(1) 貸倒引当金」に記載しております。

② 主要な仮定

主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」及び「デフォルト率の推計における将来の景気見通し」であります。それぞれの仮定の内容は次のとおりです。

・ 債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し

各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しております。

・ デフォルト率の推計における将来の景気見通し

デフォルト率は、景気予測と過去の景気推移及び倒産実績をもとに統計的に推計のうえ算定しており、景気指標にはGDP成長率を使用しております。

景気予測にあたっては、将来の景気見通しに基づく2つのシナリオ（ベースシナリオとダウンサイドシナリオ）から1年間の予想GDP成長率を算定し、原則半期毎に取締役会で決定しております。

当事業年度末における景気見通しは、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う経済活動の正常化や、日米株価の上昇など明るい兆しは見られるものの、物価高による個人消費の低迷、ウクライナ情勢や中東情勢の緊迫化など、引き続き先行きの不透明感は強いと仮定しております。

③ 翌事業年度の財務諸表に与える影響

主要な仮定は、景気動向や不動産価格、取引先企業の経営状況の変動等の不確実性の影響を受ける可能性があり、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合は、翌事業年度に係る財務諸表における貸倒引当金に重要な影響を与える可能性があります。

財務諸表

(貸借対照表関係)

- ※1 無担保の消費貸借契約（債券貸借取引）により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に合計399,480百万円含まれております。
- ※2 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。なお、債権は、貸借対照表の「有価証券」中の社債(その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)によるものに限る。)、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金並びに支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券(使用貸借又は賃貸借契約によるものに限る。)であります。
- | | |
|--------------------|-----------|
| 破産更生債権及びこれらに準ずる債権額 | 8,998百万円 |
| 危険債権額 | 36,324百万円 |
| 三月以上延滞債権額 | 272百万円 |
| 貸出条件緩和債権額 | 35,048百万円 |
| 合計額 | 80,643百万円 |
- 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
- 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。
- 三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。
- 貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。
- なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- ※3 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は、7,769百万円であります。
- ※4 担保に供している資産は次のとおりであります。
- | | |
|-------------|--------------|
| 担保に供している資産 | |
| 有価証券 | 707,638百万円 |
| 貸出金 | 1,369,059百万円 |
| 担保資産に対応する債務 | |
| 預金 | 8,939百万円 |
| コールマネー | 77,300百万円 |
| 債券貸借取引受入担保金 | 386,240百万円 |
| 借入金 | 1,398,300百万円 |
- 上記のほか、為替決済等の取引の担保等として、現金預け金1百万円及びその他の資産604百万円を差し入れております。
- また、その他の資産には保証金318百万円が含まれております。
- なお、手形の再割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日）に基づき金融取引として処理しておりますが、これにより引き渡した商業手形及び買入外国為替等はありません。
- ※5 当座貸越契約及び貸付金等に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は1,031,039百万円あります。このうち原契約期間が1年以内のもの（又は任意の時期に無条件で取消可能なもの）が1,005,668百万円あります。
- なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
- ※6 土地の再評価に関する法律（1998年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。
- | | |
|--|------------|
| 再評価を行った年月日 | 1998年3月31日 |
| 同法律第3条第3項に定める再評価の方法 | |
| 土地の再評価に関する法律施行令（1998年3月31日公布政令第119号）第2条第3号に定める固定資産税評価額及び同条第4号に定める地価税の算定価格に基づいて（奥行価格補正、時点修正、近隣売買事例に補正等）、合理的な調整を行って算出。 | |
| 同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の当事業年度末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額 | 8,726百万円 |
- ※7 有形固定資産の減価償却累計額 56,589百万円
- ※8 有形固定資産の圧縮記帳額 9,218百万円
- ※9 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する当行の保証債務の額は6,914百万円あります。

(損益計算書関係)

- ※1 「その他の経常収益」には、土地建物賃貸料245百万円を含んでおります。

財務諸表

(株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：千株)

	当事業年度 期首株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度 末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	2,749,032	—	—	2,749,032	
合計	2,749,032	—	—	2,749,032	
自己株式					
普通株式	—	—	—	—	
合計	—	—	—	—	

2. 配当に関する事項

(1) 当事業年度中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,649	0.60	2023年3月31日	2023年6月29日
2023年11月13日 取締役会	普通株式	1,786	0.65	2023年9月30日	2023年12月7日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当事業年度の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2024年6月27日 定時株主総会	普通株式	15,394	利益剰余金	5.60	2024年3月31日	2024年6月27日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金預け金勘定	2,368,884百万円
預け金 (日本銀行預け金を除く)	△634
現金及び現金同等物	2,368,249

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当行は、銀行業務を中心に様々な金融サービスを提供しております。これらの事業において、資金運用手段はお客様への貸出金を主として、その他コールローン及び債券を中心とした有価証券等であります。また、資金調達手段はお客様からお預かりする預金を主として、その他コールマネー、借入金、社債等であります。このように、主として金利変動を伴う金融資産及び金融負債を有しているため、金利変動による不利な影響が生じないように、当行では、資産及び負債の総合的管理 (ALM) をしております。その一環として、デリバティブ取引も行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当行が保有する金融商品の内容及びそのリスクは、主として以下のとおりであります。

(貸出金)

主に国内の法人及び個人のお客様に対する貸出金であり、貸出先の財務状況の悪化等により、資産の価値が減少ないし消失し損失を被る信用リスク及び金利が変動することにより利益が減少するないし損失を被る金利リスクに晒されております。

(有価証券)

主に株式及び債券であり、発行体の信用リスク、金利リスク、市場の価値が変動し損失を被る価格変動リスク及び一定の環境の下で売却が困難になるなどの流動性リスク (市場流動性リスク) に晒されております。金利リスクのうち、一部は金利スワップ取引を行うことにより当該リスクを軽減しております。外貨建債券については、上記リスクのほか、為替の変動により損失を被る為替変動リスクに晒されておりますが、通貨スワップ取引等を行うことにより当該リスクを軽減しております。

(預金及び譲渡性預金)

主に法人及び個人のお客様からお預かりする当座預金、普通預金等の要求払預金、自由金利定期等の定期性預金及び譲渡性預金であり、予期せぬ資金の流出により、必要な資金確保が困難になる等の流動性リスク (資金繰りリスク) に晒されております。

(デリバティブ取引)

デリバティブ取引はお客様に対するヘッジ手段等の提供や、当行の資産及び負債の総合的管理 (ALM) 等を目的に行っており、市場リスク (金利リスク、価格変動リスク、為替変動リスク)、信用リスク及び流動性リスク (市場流動性リスク) に晒されております。

また、ALMの一環として、金利リスク及び為替変動リスクを回避する目的で行っているデリバティブ取引の一部にはヘッジ会計を適用しておりますが、当該ヘッジ会計に関するヘッジ手段、ヘッジ対象、ヘッジ方針及びヘッジの有効性の評価方法等につきましては、「(重要な会計方針)7.ヘッジ会計の方法」に記載のとおりであります。

財務諸表

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

信用リスクは当行が保有する主要なリスクであり、資産の健全性を維持しつつ適正な収益を確保するうえで、適切な管理を行うことは銀行経営における最も重要な課題の一つとなっております。

当行の取締役会は、信用リスク管理の基本方針を定めた「信用リスク管理方針」及び与信業務を適切に運営するための基本的な考え方や判断・行動の基準を明記した「与信の基本方針（クレジット・ポリシー）」を制定し、信用リスクを適切に管理しております。また、債務者の実態把握、債務者に対する経営相談・経営指導及び経営改善に向けた取組みへの支援を行っております。加えて、個別債務者やポートフォリオ等の信用リスク量を算定し、一般貸倒引当金の検証、自己資本との比較、信用リスク管理手法への活用等を行い、信用リスクを合理的かつ定量的に把握しております。

信用リスク管理にかかる組織は、信用リスク管理部門及び内部監査部門で明確に分離しております。さらに信用リスク管理部門には、審査部門、与信管理部門、問題債権管理部門を設置しており、信用リスク管理の実効性を確保しております。与信管理部門は、信用リスクに関するアクションプランを定めた「リスク管理プログラム」に則り、信用リスク管理態勢の整備・確立に努めております。内部監査部門は、信用リスクの管理状況の適切性を監査しております。

また、与信管理部門は、信用リスク及び信用リスク管理の状況について定期的に又は必要に応じて適時・適切に取締役会やALM委員会等へ報告しております。

有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクに関しては、信用リスク管理部門において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理を行っております。

②市場リスクの管理

当行の収益の中で、金利リスク等の市場リスクにかかる収益は、信用リスクのそれとともに大きな収益源の一つですが、そのリスク・テイクの内容次第では、市場リスク・ファクターの変動によって収益力や財務内容の健全性に重大な影響を及ぼすこととなります。

当行の取締役会は、市場リスク管理の基本方針を定めた「市場リスク管理方針」及び具体的管理方法を定めた管理規則を制定し、市場リスクを適切に管理しております。

当行では、ALM委員会においてマーケット環境の変化に対する機動的かつ具体的な対応策を協議し、対応方針を決定しております。リスク限度枠等については、株式会社ふくおかフィナンシャルグループから配賦されたリスク資本額やその他市場リスク管理に必要な限度枠を常務会等で設定し、半期に一度、見直しを行っております。

市場リスク管理にかかる組織は、市場取引部門（フロント・オフィス）、市場リスク管理部門（ミドル・オフィス）、市場事務管理部門（バック・オフィス）及び内部監査部門で明確に分離しており、相互牽制機能が発揮できる組織体制としております。市場リスク管理部門は、市場リスクに関するアクションプランを定めた「リスク管理プログラム」に則り、市場リスク管理態勢の整備・確立に努めております。内部監査部門は、市場リスクの管理状況の適切性を監査しております。

また、市場リスク管理部門は、市場リスク及び市場リスク管理の状況について定期的に又は必要に応じて適時・適切に取締役会やALM委員会等へ報告しております。

<市場リスクに係る定量的情報>

(ア) トレーディング目的の金融商品

当行では、「商品有価証券」、「デリバティブ取引」のうち金利関連取引、通貨関連取引及び債券関連取引の一部をトレーディング目的で保有しております。

これらの金融商品はお客様との取引及びその反対取引がほとんどであり、リスクは僅少であります。

(イ) トレーディング目的以外の金融商品

(i) 金利リスク

当行において、主要なリスク変数である金利の変動の影響を受ける主たる金融商品は、「貸出金」、「有価証券」のうち債券、「預金」、「借入金」、「デリバティブ取引」のうち金利関連取引であります。

当行では、これらの金融資産及び金融負債について、ヒストリカル・シミュレーション法（保有期間60日、信頼区間99%、観測期間1,250日）によってVaRを算定しており、金利の変動リスク管理にあたっての定量的分析に利用しております。

2024年3月31日現在で当行の金利リスク量（損失額の推計値）は、17,682百万円であります。

当行では、モデルが算出するVaRと、VaR計測時のポートフォリオに基づく仮想の損益とを比較するバックテストを実行しております。2023年度に関して実施したバックテストの結果、損失がVaRを超過した実績はなく、使用する計測モデルは十分な精度により金利リスクを捕捉しているものと考えております。

なお、金融負債の「預金」のうち満期のない「流動性預金」については、内部モデルによりその長期滞留性を考慮して適切に推計した期日を用いて、VaRを算定しております。

但し、VaRは過去の相場変動をベースに、統計的に算出した一定の発生確率での金利リスク量を計測しているため、過去の相場変動で観測できなかった金利変動が発生した場合は、リスクを捕捉できない可能性があります。

(ii) 価格変動リスク

当行において、主要なリスク変数である株価の変動の影響を受ける主たる金融商品は、「有価証券」のうち上場株式及び投資信託であります。

当行では、これらの金融資産について、ヒストリカル・シミュレーション法（政策投資上場株式は保有期間120日、信頼区間99%、観測期間1,250日、純投資上場株式・投資信託は保有期間60日、信頼区間99%、観測期間1,250日）によってVaRを算定しており、価格変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しております。

2024年3月31日現在で当行の価格変動リスク量は、28,773百万円であります。

当行では、モデルが算出するVaRと、VaR計測時のポートフォリオに基づく仮想の損益とを比較するバックテストを実行しております。2023年度に関して実施したバックテストの結果、損失がVaRを超過した実績はなく、使用する計測モデルは十分な精度により価格変動リスクを捕捉しているものと考えております。

但し、VaRは過去の相場変動をベースに、統計的に算出した一定の発生確率での価格変動リスク量を計測しているため、過去の相場変動で観測できなかった価格変動が発生した場合は、リスクを捕捉できない可能性があります。

(iii) 為替変動リスク

当行において、リスク変数である為替の変動の影響を受ける主たる金融商品は、「貸出金」のうち外貨建貸付金、「有価証券」のうち外貨建債券、「預金」のうち外貨建預金、「デリバティブ取引」のうち通貨関連取引であります。

当行では、当該金融資産と金融負債相殺後の純額をコントロールすることによって為替リスクを回避しており、リスクは僅少であります。

財務諸表

③流動性リスクの管理

当行では、流動性リスクの軽視が経営破綻や、ひいては金融機関全体の連鎖的破綻（システミック・リスク）の顕在化につながりかねないため、流動性リスクの管理には万全を期す必要があると考えております。

当行の取締役会は、流動性リスク管理の基本方針を定めた「流動性リスク管理方針」、具体的管理方法を定めた管理規則及び流動性危機時の対応方針を定めた規則を制定し、流動性リスクを適切に管理しております。

当行では、ALM委員会においてマーケット環境の変化に対する機動的かつ具体的な対応策を協議し、対応方針を決定しております。リスク限度枠等については、資金繰りリミットや担保差入限度額等を常務会等で設定し、半期に一度、見直しを行っております。

当行の資金繰りの状況について、状況に応じた管理区分（平常時・懸念時・危機時等）及び状況に応じた対応方針を定め、資金繰り管理部門が月次で管理区分を判断し、ALM委員会が必要に応じて対応方針を協議する体制としております。

流動性リスク管理にかかる組織は、日々の資金繰りの管理・運営を行う資金繰り管理部門、日々の資金繰りの管理・運営等の適切性のモニタリング等を行う流動性リスク管理部門及び内部監査部門で明確に分離しており、相互牽制機能が発揮できる組織体制としております。流動性リスク管理部門は、流動性リスクに関するアクションプランを定めた「リスク管理プログラム」に則り、流動性リスク管理態勢の整備・確立に努めております。内部監査部門は、流動性リスクの管理状況の適切性を監査しております。

また、流動性リスク管理部門は、流動性リスク及び流動性リスク管理の状況について定期的に又は必要に応じて適時・適切に取締役会やALM委員会等へ報告しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2024年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等及び組合出資金は、次表には含めておりません（注1）参照）。また、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似する科目及び「貸借対照表計上額」の重要性が乏しい科目については、注記を省略しております。

（単位：百万円）

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 有価証券			
その他有価証券（*1）	1,467,869	1,467,869	—
(2) 貸出金	4,082,471		
貸倒引当金（*2）	△42,937		
	4,039,533	4,057,101	17,567
資産計	5,507,402	5,524,970	17,567
(1) 預金	5,546,031	5,546,041	9
(2) 譲渡性預金	84,427	84,429	1
(3) 借入金	1,400,448	1,390,026	△10,422
(4) 社債	—	—	—
負債計	7,030,907	7,020,497	△10,410
デリバティブ取引（*3）			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(822)	(822)	—
ヘッジ会計が適用されているもの（*4）	1,754	1,754	—
デリバティブ取引計	932	932	—

（*1） その他有価証券には、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24-9項の基準価額を時価とみなす取扱いを適用した投資信託が含まれております。

（*2） 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

（*3） その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。
デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で表示しております。

（*4） ヘッジ対象である貸出金・有価証券等の金融資産・負債のキャッシュ・フローの固定化、相場変動の相殺又は為替変動リスクの減殺を行うためにヘッジ手段として指定した金利スワップ・通貨スワップ等であり、繰延ヘッジ・特例処理・振当処理を適用しております。

なお、これらのヘッジ関係に、「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」（実務対応報告第40号 2022年3月17日）を適用しております。

（注1） 市場価格のない株式等及び組合出資金の貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「その他有価証券」には含まれておりません。

（単位：百万円）

区 分	貸借対照表計上額
非上場株式（*1）（*2）	2,193
組合出資金（*3）	975

（*1） 非上場株式については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

（*2） 当事業年度において、非上場株式についての減損処理は該当ありません。

（*3） 組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24-16項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

財務諸表

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で貸借対照表に計上している金融商品

(単位：百万円)

区 分	時 価			合 計
	レベル1	レベル2	レベル3	
有価証券				
その他有価証券				
国債	646,649	—	—	646,649
地方債	—	74,386	—	74,386
社債	—	150,506	7,026	157,532
株式	54,464	—	—	54,464
外国債券	192,757	106,682	—	299,440
その他（*1）	123,292	93,022	5,547	221,862
資産計	1,017,163	424,599	12,573	1,454,336
デリバティブ取引（*2）				
金利関連	—	5,574	—	5,574
通貨関連	—	△4,642	—	△4,642
株式関連	—	—	—	—
債券関連	—	—	—	—
商品関連	—	—	—	—
クレジット・デリバティブ	—	—	—	—
デリバティブ取引計	—	932	—	932

（*1）「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24-9項の基準価額を時価とみなす取扱いを適用した投資信託は含まれておりません。第24-9項の取扱いを適用した投資信託の貸借対照表計上額は13,533百万円であります。

（*2）その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。
デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、△で表示しております。

(2) 時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：百万円)

区 分	時 価			合 計
	レベル1	レベル2	レベル3	
貸出金	—	—	4,057,101	4,057,101
資産計	—	—	4,057,101	4,057,101
預金	—	5,546,041	—	5,546,041
譲渡性預金	—	84,429	—	84,429
借入金	—	1,390,026	—	1,390,026
社債	—	—	—	—
負債計	—	7,020,497	—	7,020,497

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

資産

有価証券

有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に上場株式、国債がこれに含まれます。公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に地方債、社債がこれに含まれます。また、市場における取引価格が存在しない投資信託について、解約又は買戻請求に關して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がない場合には基準価額を時価とし、レベル2の時価に分類しております。

相場価格が利用できない場合には、個々の取引から発生する将来キャッシュ・フローを見積もり、市場金利に、内部格付に準じた債務者区分ごとの予想損失率に基づく信用リスク要因等を上乗せした利率で割り引いた現在価値を時価としており、レベル3の時価に分類しております。

貸出金

貸出金については、主として、個々の取引から発生する将来キャッシュ・フローを見積もり、市場金利に、内部格付に準じた貸出金の種類及び債務者区分ごとの予想損失率に基づく信用リスク要因等を上乗せした利率で割り引いた現在価値を時価としており、レベル3の時価に分類しております。将来キャッシュ・フローの見積もりは、変動金利によるものは短期間で市場金利を反映するため、

財務諸表

次の金利期日を満期日とみなしております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は決算日における貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似していることから、当該価額を時価としており、レベル3の時価に分類しております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としており、レベル3の時価に分類しております。

負債

預金及び譲渡性預金

要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。また、定期預金は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを見積もり、新規に預金を受け入れる際に使用する利率で割り引いた現在価値を時価としており、レベル2の時価に分類しております。

借入金

借入金については、個々の取引から発生する将来キャッシュ・フローを見積もり、市場金利に市場価格のある社債等から推定される当行の信用リスク要因等を上乗せした利率で割り引いた現在価値を時価としております。これらについては、時価に対して観察できないインプットの影響額が重要な場合にはレベル3の時価、そうでない場合にはレベル2の時価に分類しております。将来キャッシュ・フローの見積もりは、変動金利によるものは短期間で市場金利を反映するため、次の金利期日を満期日とみなしております。

社債

当行の発行する社債の時価は、市場価格のある社債は市場価格によっております。市場価格のない社債は、個々の取引から発生する将来キャッシュ・フローを見積もり、市場金利に市場価格のある社債等から推定される当行の信用リスク要因等を上乗せした利率で割り引いた現在価値を時価としております。市場価格のある社債はレベル2の時価に分類し、市場価格のない社債は、レベル3の時価に分類しております。将来キャッシュ・フローの見積もりは、変動金利によるものは短期間で市場金利を反映するため、次の金利期日を満期日とみなしております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しており、主に債券先物取引や金利先物取引がこれに含まれます。

ただし、大部分のデリバティブ取引は店頭取引であり、公表された相場価格が存在しないため、取引の種類や満期までの期間に応じて割引現在価値法やオプション価格計算モデル等により算出した価額をもって時価としております。それらの評価技法で用いている主なインプットは、市場金利や為替レート、ボラティリティ等であります。また、取引相手の信用リスク及び当行自身の信用リスクに基づく価格調整を行っております。

店頭取引のうち、観察できないインプットを用いていない又はその影響が重要でない場合はレベル2の時価に分類しております。また、重要な観察できないインプットを用いている場合はレベル3の時価に分類しております。

(注2) 時価で貸借対照表に計上している金融商品のうちレベル3の時価に関する情報

(1) 重要な観察できないインプットに関する定量的情報

区 分	評価技法	重要な観察できない インプット	インプットの範囲	インプットの加重平均
有価証券				
その他有価証券				
社債				
私募債・特定社債	割引現在価値法	倒産確率	0.05%～7.15%	0.43%
		倒産時の損失率	20.00%～100.00%	63.17%

(2) 期首残高から期末残高への調整表、当期の損益に認識した評価損益

(単位：百万円)

	期首残高	当期の損益又は 評価・換算差額等		購入、売却、 発行及び決済 の純額	レベル3の 時価への 振替	レベル3の 時価からの 振替	期末残高	当期の損益に 計上した額の うち貸借対照 表日において 保有する金融 資産及び金融 負債の評価損 益
		損益に計上 (*)	その他 有価証券 評価差額金					
有価証券								
その他有価証券								
社債	7,333	0	△9	△298	—	—	7,026	—
その他	7,502	—	△43	△1,911	—	—	5,547	—

(*) 主に損益計算書の「その他業務収益」及び「その他業務費用」に含まれております。

(3) 時価の評価プロセスの説明

当行では、リスク管理部門（ミドル・オフィス）及び市場事務管理部門（バック・オフィス）において時価の算定に関する方針及び手続を定めており、これに沿って各部門が時価を算定しております。算定された時価は、各部門において、時価の算定に用いられた評価技法及びインプットの妥当性並びに時価のレベルの分類の適切性を検証しております。

時価の算定に当たっては、個々の資産の性質、特性及びリスクを最も適切に反映できる評価モデルを用いております。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法及びインプットの確認や価格の時系列推移の分析、当行で算出した推定値との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。

財務諸表

(4) 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明

倒産確率

倒産確率は、倒産事象が発生する可能性を示す推定値であります。倒産確率の大幅な上昇（低下）は、時価の著しい下落（上昇）を生じさせます。

倒産時の損失率

倒産時の損失率は、倒産時において発生すると見込まれる損失の、債券の残高合計に占める割合を示す推定値です。倒産時の損失率の大幅な上昇（低下）は、時価の著しい下落（上昇）を生じさせます。

財務諸表

(税効果会計関係)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金	12,195百万円
税務上の繰越欠損金	1,887
退職給付引当金	1,045
有価証券償却	476
減価償却	1,252
連結納税に伴う時価評価益	3,784
その他	2,262
繰延税金資産小計	22,904
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	△291
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△5,630
評価性引当額小計	△5,921
繰延税金資産合計	16,983
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△3,879
退職給付信託返還有価証券	△180
固定資産圧縮積立金	△50
連結納税に伴う時価評価損	△457
繰延ヘッジ損益	△1,364
その他	△30
繰延税金負債合計	△5,963
繰延税金資産の純額	11,020百万円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当行は、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

- サービスごとの情報
当行は、銀行業として単一のサービスを提供しているため、記載を省略しております。
- 地域ごとの情報
 - 経常収益
当行は、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。
 - 有形固定資産
当行の有形固定資産は、全て本邦に所在しているため、記載を省略しております。
- 主要な顧客ごとの情報
特定の顧客に対する経常収益で損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当行は、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

財務諸表

(1株当たり情報)

		2023年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり純資産額	円	98.49
1株当たり当期純利益	円	3.82
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	円	—

(注) 1.1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

		2023年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
1株当たり当期純利益		
当期純利益	百万円	10,523
普通株主に帰属しない金額	百万円	—
普通株式に係る当期純利益	百万円	10,523
普通株式の期中平均株式数	千株	2,749,032

2.なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないので記載しておりません。

3.1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

		2023年度 (2024年3月31日)
純資産の部の合計額	百万円	270,777
純資産の部の合計額から控除する金額	百万円	—
普通株式に係る期末の純資産額	百万円	270,777
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数	千株	2,749,032

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

財務諸表に係る確認書

「財務諸表の正確性、内部監査の有効性についての経営者責任の明確化について（要請）」（2005年10月7日付金監第2835号）に基づく、当行の財務諸表の適正性、及び財務諸表作成に係る内部監査の有効性に関する代表者の確認書は以下のとおりです。

確認書

2024年6月27日

株式会社 十八親和銀行
取締役頭取 山川 信彦

私は、当行の2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度（2024年3月期）に係る財務諸表の適正性、及び財務諸表作成に係る内部監査の有効性を確認しております。

以 上

損益の状況

■業務粗利益及び業務粗利益率

(単位：百万円)

	2022年度			2023年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
資 金 運 用 収 支	41,658	1,607	43,266	45,704	261	45,966
役 務 取 引 等 収 支	4,983	35	5,018	5,816	27	5,843
そ の 他 業 務 収 支	△101	△11,067	△11,169	△1,357	△1,527	△2,884
業 務 粗 利 益	46,540	△9,424	37,116	50,163	△1,237	48,925
業 務 粗 利 益 率	0.84%	△3.43%	0.64%	0.81%	△0.34%	0.76%

(注) 1.国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は国際業務部門に含めております。

2.資金運用収支は、金銭の信託運用見合費用を控除しております。

3.業務粗利益率＝ $\frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times 100$

■業務純益等

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度
業 務 純 益	5,225	16,108
実 質 業 務 純 益	5,225	16,872
コ ア 業 務 純 益	16,200	19,149
コ ア 業 務 純 益 (投資信託解約損益除く)	16,983	19,995

■役務取引等収支の内訳

(単位：百万円)

	2022年度			2023年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
役 務 取 引 等 収 益	12,721	81	12,803	13,954	71	14,025
うち預金・貸出業務	5,654	2	5,657	6,007	1	6,008
うち為替業務	2,845	79	2,924	2,803	70	2,873
うち証券関連業務	168	－	168	228	－	228
うち代理業務	171	－	171	215	－	215
うち保護預り・貸金庫業務	67	－	67	66	－	66
うち保証業務	84	0	84	87	0	87
うち投資信託・保険販売業務	3,729	－	3,729	4,547	－	4,547
役 務 取 引 等 費 用	7,738	46	7,784	8,138	43	8,181
うち為替業務	1,016	19	1,035	1,033	12	1,046

■その他業務収支の内訳

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度
国 内 業 務 部 門	△101	△1,357
商品有価証券売買損益	△1	△1
国債等債券売却等損益	244	△1,718
金融派生商品損益	△345	362
そ の 他	－	－
国 際 業 務 部 門	△11,067	△1,527
外国為替売買損益	75	△1,019
国債等債券売却等損益	△11,219	△558
金融派生商品損益	76	50
そ の 他	－	－
合 計	△11,169	△2,884

■営業経費の内訳

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度
給 料 ・ 手 当	12,422	12,100
退 職 給 付 費 用	△157	△23
福 利 厚 生 費	348	345
減 価 償 却 費	2,872	2,941
土地建物機械賃借料	798	793
営 繕 費	98	109
消 耗 品 費	332	331
給 水 光 熱 費	358	285
旅 行 費	112	121
通 信 費	717	1,112
広 告 宣 伝 費	441	664
租 税 公 課	2,458	2,584
そ の 他	11,751	11,362
合 計	32,555	32,730

損益の状況

■資金運用・調達勘定の平均残高、利息、利回り

(単位：億円)

	2022年度			2023年度		
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資 金 運 用 勘 定	(813) 55,205	(0) 418	0.75%	(1,054) 61,709	(0) 473	0.76%
う ち 貸 出 金	38,408	315	0.82%	41,283	319	0.77%
う ち 有 価 証 券	9,689	82	0.84%	10,353	96	0.92%
資 金 調 達 勘 定	62,936	2	0.00%	71,657	16	0.02%
う ち 預 金	54,311	1	0.00%	55,032	1	0.00%
う ち 譲 渡 性 預 金	2,391	0	0.00%	2,089	0	0.00%

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高を、資金調達勘定は金銭の信託運用見合額の平均残高及び利息を、それぞれ控除して表示しております。
2.()内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息（内書き）であります。

〈国際業務部門〉

(単位：億円)

	2022年度			2023年度		
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資 金 運 用 勘 定	2,746	76	2.75%	3,597	170	4.71%
う ち 貸 出 金	260	7	2.54%	218	7	3.33%
う ち 有 価 証 券	2,430	62	2.56%	3,329	124	3.72%
資 金 調 達 勘 定	(813) 2,738	(0) 60	2.17%	(1,054) 3,581	(0) 167	4.66%
う ち 預 金	79	0	0.26%	79	0	0.54%
う ち 譲 渡 性 預 金	—	—	—	—	—	—

(注) 1.()内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息（内書き）であります。
2. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式（前月末のTT仲値を当該月のノンエクスチェンジ取引に適用する方式）により算出しております。

〈合計〉

(単位：億円)

	2022年度			2023年度		
	平均残高	利 息	利回り	平均残高	利 息	利回り
資 金 運 用 勘 定	57,138	494	0.86%	64,253	642	0.99%
う ち 貸 出 金	38,668	322	0.83%	41,501	327	0.78%
う ち 有 価 証 券	12,119	144	1.19%	13,683	220	1.60%
資 金 調 達 勘 定	64,861	61	0.09%	74,184	183	0.24%
う ち 預 金	54,391	1	0.00%	55,111	1	0.00%
う ち 譲 渡 性 預 金	2,391	0	0.00%	2,089	0	0.00%

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高を、資金調達勘定は金銭の信託運用見合額の平均残高及び利息を、それぞれ控除して表示しております。
2. 国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息は、相殺して記載しております。

■利鞘

(単位：%)

	2022年度			2023年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
資 金 運 用 利 回 り	0.75	2.75	0.86	0.76	4.71	0.99
資 金 調 達 原 価	0.50	2.20	0.58	0.46	4.69	0.67
総 資 金 利 鞘	0.25	0.55	0.28	0.30	0.02	0.32

損益の状況

■受取・支払利息の増減

〈国内業務部門〉

(単位：百万円)

	2022年度			2023年度		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受 取 利 息	2,457	△2,784	△327	4,955	489	5,444
う ち 貸 出 金	△434	△85	△520	2,291	△1,870	421
う ち 有 価 証 券	△44	△700	△745	587	794	1,382
支 払 利 息	6	△18	△11	107	1,291	1,398
う ち 預 金	2	△15	△13	1	△11	△10
う ち 譲 渡 性 預 金	1	△2	△1	△2	△0	△3

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、両者の増減割合に応じて按分しております。

〈国際業務部門〉

(単位：百万円)

	2022年度			2023年度		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受 取 利 息	2,074	2,283	4,357	3,183	6,223	9,407
う ち 貸 出 金	138	273	412	△122	188	65
う ち 有 価 証 券	1,837	1,444	3,282	2,832	3,333	6,165
支 払 利 息	1,121	4,386	5,507	2,885	7,867	10,752
う ち 預 金	△3	14	11	△0	22	22
う ち 譲 渡 性 預 金	—	—	—	—	—	—

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、両者の増減割合に応じて按分しております。

〈合計〉

(単位：百万円)

	2022年度			2023年度		
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減
受 取 利 息	3,050	979	4,030	6,633	8,216	14,849
う ち 貸 出 金	△378	271	△107	2,294	△1,807	486
う ち 有 価 証 券	874	1,662	2,536	2,186	5,360	7,547
支 払 利 息	143	5,352	5,495	1,589	10,559	12,149
う ち 預 金	2	△4	△2	1	10	12
う ち 譲 渡 性 預 金	1	△2	△1	△2	△0	△3

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、両者の増減割合に応じて按分しております。

■利益率

(単位：%)

	2022年度	2023年度
総資産経常利益率	0.12	0.17
資本経常利益率	3.26	5.24
総資産当期純利益率	0.10	0.13
資本当期純利益率	2.80	3.99

- (注) 1. 総資産経常利益率 = $\frac{\text{経常利益}}{(\text{期初総資産(除く支払承諾見返)} + \text{期末総資産(除く支払承諾見返)}) \div 2} \times 100$
2. 資本経常利益率 = $\frac{\text{経常利益}}{(\text{期初資本勘定} + \text{期末資本勘定}) \div 2} \times 100$
3. 総資産当期純利益率 = $\frac{\text{当期純利益}}{(\text{期初総資産(除く支払承諾見返)} + \text{期末総資産(除く支払承諾見返)}) \div 2} \times 100$
4. 資本当期純利益率 = $\frac{\text{当期純利益}}{(\text{期初資本勘定} + \text{期末資本勘定}) \div 2} \times 100$

預金

■預金残高

(1) 期末残高

(単位：億円)

	2022年度			2023年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
流動性預金	40,633	—	40,633 (71.7)	42,172	—	42,172 (74.9)
有 利 息 預 金	33,979	—	33,979 (60.0)	35,077	—	35,077 (62.3)
定期性預金	13,689	—	13,689 (24.2)	12,818	—	12,818 (22.8)
固 定 金 利 定 期 預 金	13,687	—	13,687 (24.2)	12,816	—	12,816 (22.8)
変 動 金 利 定 期 預 金	1	—	1 (0.0)	1	—	1 (0.0)
そ の 他	602	80	682 (1.2)	405	64	469 (0.8)
合 計	54,924	80	55,005 (97.1)	55,396	64	55,460 (98.5)
譲渡性預金	1,654	—	1,654 (2.9)	844	—	844 (1.5)
総 合 計	56,579	80	56,659 (100.0)	56,240	64	56,304 (100.0)

(注) 1.流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金

2.定期性預金＝定期預金

固定金利定期預金：預入時に満期日迄の利率が確定する定期預金

変動金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金

3.() 内は構成比率％であります。

(2) 平均残高

(単位：億円)

	2022年度			2023年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
流動性預金	39,982	—	39,982 (70.4)	41,451	—	41,451 (72.4)
有 利 息 預 金	33,605	—	33,605 (59.2)	34,812	—	34,812 (60.9)
定期性預金	14,136	—	14,136 (24.9)	13,379	—	13,379 (23.4)
固 定 金 利 定 期 預 金	14,134	—	14,134 (24.9)	13,377	—	13,377 (23.4)
変 動 金 利 定 期 預 金	2	—	2 (0.0)	1	—	1 (0.0)
そ の 他	192	79	272 (0.5)	201	79	281 (0.5)
合 計	54,311	79	54,391 (95.8)	55,032	79	55,111 (96.3)
譲渡性預金	2,391	—	2,391 (4.2)	2,089	—	2,089 (3.7)
総 合 計	56,703	79	56,782 (100.0)	57,121	79	57,201 (100.0)

(注) 1.流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金

2.定期性預金＝定期預金

固定金利定期預金：預入時に満期日迄の利率が確定する定期預金

変動金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金

3.国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式（前月末のTT仲値を当該月のノンエクスチェンジ取引に適用する方式）により算出しております。

4.() 内は構成比率％であります。

■定期預金の残存期間別残高

(単位：百万円)

	3ヵ月未満	3ヵ月以上 6ヵ月未満	6ヵ月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上	合 計
2022年度							
定期預金	404,099	295,748	550,718	68,747	28,768	19,122	1,367,206
固 定 金 利 定 期 預 金	404,075	295,748	550,687	68,671	28,732	19,122	1,367,038
変 動 金 利 定 期 預 金	23	—	30	76	36	—	167
2023年度							
定期預金	402,932	271,330	479,700	66,156	31,043	29,041	1,280,205
固 定 金 利 定 期 預 金	402,926	271,306	479,660	66,120	31,013	29,040	1,280,066
変 動 金 利 定 期 預 金	5	23	40	36	30	1	138

(注) 本表の預金残高には、確定拠出型定期預金及び積立定期預金を含んでおりません。

貸出金等

■貸出金の種類別残高

(1) 期末残高

(単位：億円)

種 類	2022年度			2023年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
手 形 貸 付	918	—	918	873	—	873
証 書 貸 付	38,007	216	38,224	36,451	247	36,698
当 座 貸 越	2,884	—	2,884	3,174	—	3,174
割 引 手 形	71	—	71	77	—	77
合 計	41,882	216	42,098	40,577	247	40,824

(2) 平均残高

(単位：億円)

種 類	2022年度			2023年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
手 形 貸 付	846	—	846	876	—	876
証 書 貸 付	34,718	260	34,978	37,424	218	37,642
当 座 貸 越	2,772	—	2,772	2,913	—	2,913
割 引 手 形	70	—	70	69	—	69
合 計	38,408	260	38,668	41,283	218	41,501

(注) 国際業務部門の国内店外貸建取引の平均残高は、月次カレント方式（前月末のTT仲値を当該月のノンエクスチェンジ取引に適用する方式）により算出しております。

■貸出金の残存期間別残高

(単位：百万円)

	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超	期間の定め のないもの	合 計
2022年度							
貸出金	1,824,339	560,570	428,096	315,314	1,029,513	52,014	4,209,849
うち 変動金利	—	169,021	128,233	105,459	518,884	52,014	—
うち 固定金利	—	391,549	299,862	209,855	510,629	—	—
2023年度							
貸出金	1,688,356	543,432	451,333	333,847	1,016,787	48,713	4,082,471
うち 変動金利	—	180,181	176,460	135,815	560,324	48,713	—
うち 固定金利	—	363,251	274,873	198,032	456,462	—	—

(注) 残存期間1年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしておりません。

■担保の種類別貸出金残高

(単位：百万円)

種 類	2022年度	2023年度
有 価 証 券	1,055	1,204
債 権	13,715	12,707
商 品	—	—
不 動 産	365,582	379,905
そ の 他	0	0
計	380,354	393,817
保 証	1,439,439	1,404,806
信 用	2,390,055	2,283,847
合 計	4,209,849	4,082,471
(うち劣後特約貸出金)	(1,752)	(552)

■担保の種類別支払承諾見返残高

(単位：百万円)

種 類	2022年度	2023年度
有 価 証 券	—	—
債 権	58	61
商 品	—	—
不 動 産	1,516	1,653
そ の 他	—	—
計	1,575	1,715
保 証	7,347	5,277
信 用	7,038	8,365
合 計	15,961	15,358

■貸出金の使途別残高

(単位：億円)

	2022年度		2023年度	
設 備 資 金	16,141	(38.3)	16,399	(40.2)
運 転 資 金	25,956	(61.7)	24,425	(59.8)
合 計	42,098	(100.0)	40,824	(100.0)

(注) () 内は構成比率%であります。

貸出金等

■貸出金の業種別残高

(単位：百万円)

業 種 別	2022年度 貸出金残高		2023年度 貸出金残高	
国内店分（除く特別国際金融取引勘定分）	4,209,849	(100.0)	4,082,471	(100.0)
製 造 業	176,387	(4.2)	164,342	(4.0)
農 業、 林 業	12,698	(0.3)	12,266	(0.3)
漁 業	15,302	(0.4)	15,413	(0.4)
鉱業、採石業、砂利採取業	11,624	(0.3)	11,008	(0.3)
建設業	96,249	(2.3)	94,475	(2.3)
電気・ガス・熱供給・水道業	82,278	(1.9)	88,566	(2.2)
情報通信業	15,906	(0.4)	15,266	(0.4)
運輸業、郵便業	119,894	(2.8)	122,687	(3.0)
卸売業、小売業	270,121	(6.4)	272,650	(6.7)
金融業、保険業	137,609	(3.3)	107,334	(2.6)
不動産業、物品賃貸業	492,041	(11.7)	541,752	(13.3)
その他各種サービス業	339,026	(8.0)	327,828	(8.0)
国・地方公共団体	1,553,731	(36.9)	1,409,826	(34.5)
その他の	886,976	(21.1)	899,049	(22.0)
海外（特別国際金融取引勘定分）	—	(—)	—	(—)
政 府 等	—	(—)	—	(—)
合 計	4,209,849	(—)	4,082,471	(—)

(注) () 内は構成比率%であります。

■中小企業等向け貸出金残高

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度
貸 出 金 残 高	2,213,835	2,255,860
総貸出金に対する比率 (%)	52.58	55.25

(注) 1.本表の貸出金残高には、特別国際金融取引勘定分を含んでおりません。

2.中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の企業等であります。

■ローン残高

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度
ロ ー ン 残 高	868,692	881,315
うち住宅ローン残高	772,727	784,271
うち消費性ローン残高	81,484	83,350

(注) ローン残高は、アパートローン及びカードローンを含んでおります。

■特定海外債権残高

該当事項はありません。

■貸出金の預金に対する比率（預貸率）

(単位：%)

	2022年度			2023年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
期末残高	74.02	268.00	74.30	72.14	386.59	72.50
平均残高	67.73	326.73	68.09	72.27	275.34	72.55

有価証券

■有価証券の種類別残高

(1) 期末残高

(単位：億円)

		2022年度			2023年度		
		国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
国	債	4,854	—	4,854 (38.8)	6,466	—	6,466 (44.0)
地	債	773	—	773 (6.2)	743	—	743 (5.1)
社	債	2,052	—	2,052 (16.4)	1,575	—	1,575 (10.7)
株	式	407	—	407 (3.2)	566	—	566 (3.8)
そ の 他 の 証 券		1,662	2,763	4,425 (35.4)	1,975	3,382	5,358 (36.4)
う ち 外 国 債 券		—	2,467	2,467 (19.7)	—	2,994	2,994 (20.4)
う ち 外 国 株 式		—	—	— (—)	—	—	— (—)
合	計	9,750	2,763	12,513 (100.0)	11,327	3,382	14,710 (100.0)

(注) () 内は構成比率%であります。

(2) 平均残高

(単位：億円)

		2022年度			2023年度		
		国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
国	債	5,175	—	5,175 (42.7)	5,737	—	5,737 (41.9)
地	債	788	—	788 (6.5)	771	—	771 (5.6)
社	債	2,090	—	2,090 (17.3)	1,983	—	1,983 (14.5)
株	式	242	—	242 (2.0)	256	—	256 (1.9)
そ の 他 の 証 券		1,392	2,430	3,822 (31.5)	1,604	3,329	4,934 (36.1)
う ち 外 国 債 券		—	2,234	2,234 (18.4)	—	2,929	2,929 (21.4)
う ち 外 国 株 式		—	—	— (—)	—	—	— (—)
合	計	9,689	2,430	12,119 (100.0)	10,353	3,329	13,683 (100.0)

(注) 1. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式（前月末のTT仲値を当該月のノンエクスチェンジ取引に適用する方式）により算出しております。

2. () 内は構成比率%であります。

■有価証券の残存期間別残高

(単位：百万円)

		1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	期間の定め のないもの	合 計
2022年度									
国	債	61,422	39,018	5,390	8,843	85,811	285,008	—	485,495
地	債	3,710	34,062	8,982	18,310	11,028	1,207	—	77,301
社	債	41,396	17,463	22,433	2,065	2,576	105,987	13,332	205,257
株	式	—	—	—	—	—	—	40,735	40,735
そ の 他 の 証 券		21,006	29,767	85,058	34,972	60,916	70,047	140,830	442,599
う ち 外 国 債 券		20,526	21,627	52,441	32,519	49,422	64,498	5,688	246,723
う ち 外 国 株 式		—	—	—	—	—	—	—	—
2023年度									
国	債	23,342	56,406	128,594	33,873	106,554	297,877	—	646,649
地	債	17,745	20,608	7,676	17,099	10,170	1,086	—	74,386
社	債	6,447	24,810	19,608	665	2,749	94,871	8,379	157,532
株	式	—	—	—	—	—	—	56,657	56,657
そ の 他 の 証 券		8,099	47,939	73,133	41,753	51,887	133,081	179,915	535,811
う ち 外 国 債 券		5,973	26,510	49,263	35,340	47,473	128,257	6,620	299,440
う ち 外 国 株 式		—	—	—	—	—	—	—	—

■有価証券の預金に対する比率（預証率）

(単位：%)

	2022年度			2023年度		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
期末残高	17.23	3,424.45	22.08	20.14	5,283.68	26.12
平均残高	17.08	3,051.00	21.34	18.12	4,198.13	23.92

■商品有価証券の平均残高

(単位：百万円)

		2022年度	2023年度
商 品 国 債		37	17
商 品 地 方 債		310	232
合 計		347	250

不良債権、引当等

■リスク管理債権

(単位：百万円)

区分	2022年度	2023年度
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	8,278	8,998
危険債権	36,182	36,324
三ヶ月以上延滞債権	215	272
貸出条件緩和債権	33,884	35,048
合計	78,561	80,643
正常債権	4,155,765	4,025,596

(注) 1.「リスク管理債権」は、銀行法施行規則により算出しており、担保・保証等による保全の有無にかかわらず開示対象としているため、開示額は回収不能額を表すものではありません。

2.それぞれの債権の内容は次のとおりであります。

(1)破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の中立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

(2)危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、上記(1)に該当しないもの。

(3)三ヶ月以上延滞債権

元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三ヶ月以上遅延している貸出金で、上記(1)及び(2)に該当しないもの。

(4)貸出条件緩和債権

債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、上記(1)、(2)及び(3)に該当しないもの。

(5)正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記(1)から(4)までに掲げる債権以外のものに区分される債権。

■貸倒引当金内訳

(単位：百万円)

	2022年度					2023年度				
	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	24,375	26,225	—	24,375	26,225	26,225	26,989	—	26,225	26,989
個別貸倒引当金	21,761	14,556	2,139	19,621	14,556	14,556	16,054	789	13,767	16,054
うち非居住者向け債権分	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	46,136	40,782	2,139	43,996	40,782	40,782	43,043	789	39,993	43,043

■貸出金償却額

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度
貸出金償却額	0	0

時価等情報

■有価証券関係

※貸借対照表の「有価証券」のほか、「商品有価証券」を含めて記載しております。

1. 売買目的有価証券

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度
	当期の損益に含まれた評価差額	当期の損益に含まれた評価差額
売 買 目 的 有 価 証 券	△0	2

2. 満期保有目的の債券 …… 該当事項はありません。

3. 子会社株式及び関連会社株式 …… 該当事項はありません。

4. その他有価証券

(単位：百万円)

	種 類	2022年度			2023年度		
		貸借対照表計上額	取得原価	差 額	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株 式	31,706	14,084	17,622	50,252	19,370	30,881
	債 券	315,399	307,143	8,256	272,093	267,238	4,854
	国 債	201,261	194,180	7,081	210,517	206,148	4,369
	地 方 債	42,283	41,748	535	36,317	36,052	264
	社 債	71,854	71,214	639	25,258	25,038	220
	そ の 他	225,367	211,570	13,796	246,528	216,806	29,721
	小 計	572,473	532,798	39,675	568,874	503,415	65,458
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株 式	6,824	8,308	△1,483	4,212	4,484	△271
	債 券	452,655	471,366	△18,710	606,475	637,505	△31,029
	国 債	284,233	299,455	△15,222	436,132	461,457	△25,325
	地 方 債	35,018	35,408	△389	38,069	38,614	△545
	社 債	133,402	136,501	△3,098	132,273	137,433	△5,159
	そ の 他	215,200	226,576	△11,375	288,307	307,327	△19,019
	小 計	674,680	706,250	△31,570	898,995	949,316	△50,321
合 計		1,247,154	1,239,048	8,105	1,467,869	1,452,732	15,137

(注) 市場価格のない株式等及び組合出資金は次のとおりであり、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
非上場株式	2,204	2,193
組合出資金	2,030	975

5. 当期中に売却した満期保有目的の債券 …… 該当事項はありません。

6. 当期中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

		2022年度			2023年度		
		売却額	売却益の合計額	売却損の合計額	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株 式		1,645	658	53	831	313	141
債 券		33,365	426	193	16,607	0	1,718
国 債		33,257	426	193	16,491	—	1,718
地 方 債		—	—	—	—	—	—
社 債		108	0	—	115	0	—
そ の 他		123,372	766	11,280	34,937	1,481	1,016
合 計		158,383	1,851	11,527	52,376	1,796	2,876

(注) その他有価証券で市場価格のない株式等及び組合出資金を含んでおります。

7. 保有目的を変更した有価証券 …… 該当事項はありません。

時価等情報

8. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券（市場価格のない株式等及び組合出資金を除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当該事業年度の損失として処理（以下、「減損処理」という。）しております。

2022年度における減損処理額は、310百万円（うち株式310百万円）であります。

2023年度における減損処理額は、該当ありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に以下のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べて下落
要注意先	時価が取得原価に比べて30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べて50%以上下落又は、時価が取得原価に比べ30%以上50%未満下落したもので市場価格が一定水準以下で推移等

なお、破綻先とは、破産、特別清算、手形取引所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは、実質的に経営破綻に陥っている発行会社、破綻懸念先とは、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社であります。要注意先とは、今後の管理に注意を要する発行会社であります。正常先とは、上記破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

■金銭の信託関係

1. 運用目的の金銭の信託

2022年度

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	10,000	47

2023年度

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	当期の損益に含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	9,892	△24

2. 満期保有目的の金銭の信託 …… 該当事項はありません。

3. その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外） …… 該当事項はありません。

時価等情報

■デリバティブ取引関係

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

(単位：百万円)

区 分	種 類	2022年度				2023年度			
		契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時 価	評価損益	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時 価	評価損益
金融商品 取 引 所	金 利 先 物	—	—	—	—	—	—	—	—
	売 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	金 利 オ プ シ ョ ン	—	—	—	—	—	—	—	—
	売 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買 建	—	—	—	—	—	—	—	—
店 頭	金 利 先 渡 契 約	—	—	—	—	—	—	—	—
	売 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	金 利 ス ワ ッ プ	20,318	17,349	108	106	16,294	16,294	89	88
	受取固定・支払変動	10,159	8,674	37	34	8,147	8,147	8	6
	受取変動・支払固定	10,159	8,674	71	72	8,147	8,147	81	82
	受取変動・支払変動	—	—	—	—	—	—	—	—
	金 利 オ プ シ ョ ン	—	—	—	—	—	—	—	—
	売 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	そ の 他	—	—	—	—	—	—	—	—
	売 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	合 計	—	—	108	106	—	—	89	88

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。

(2) 通貨関連取引

(単位：百万円)

区 分	種 類	2022年度				2023年度			
		契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時 価	評価損益	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時 価	評価損益
金融商品 取 引 所	通 貨 先 物	—	—	—	—	—	—	—	—
	売 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	通 貨 オ プ シ ョ ン	—	—	—	—	—	—	—	—
	売 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買 建	—	—	—	—	—	—	—	—
店 頭	通 貨 ス ワ ッ プ	44,082	39,081	△6	△6	72,649	65,685	△3	△3
	為 替 予 約	53,082	—	△438	△438	47,871	—	△908	△908
	売 建	37,310	—	△841	△841	38,093	—	△1,001	△1,001
	買 建	15,772	—	403	403	9,777	—	92	92
	通 貨 オ プ シ ョ ン	—	—	—	—	—	—	—	—
	売 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	そ の 他	—	—	—	—	—	—	—	—
	売 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買 建	—	—	—	—	—	—	—	—
	合 計	—	—	△445	△445	—	—	△912	△912

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。

(3) 株式関連取引 …… 該当事項はありません。

(4) 債券関連取引 …… 該当事項はありません。

(5) 商品関連取引 …… 該当事項はありません。

(6) クレジット・デリバティブ取引 …… 該当事項はありません。

時価等情報

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種 類	2022年度				2023年度			
		主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時 価	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時 価
原則的 処理方法	金利スワップ		1,672,273	1,664,049	1,487		2,461,205	1,353,548	5,484
	受取固定・支払変動	貸出金、その他有価証券、預金、譲渡性預金	1,445,300	1,445,300	84	貸出金、その他有価証券、預金、譲渡性預金	1,983,700	882,100	△4,369
	受取変動・支払固定	等の有利息の金融資産・負債	226,973	218,749	1,403	等の有利息の金融資産・負債	477,505	471,448	9,854
	金利先物		—	—	—		—	—	—
	金利オプション		—	—	—		—	—	—
金利 スワップの 特例処理	金利スワップ		—	—	—		—	—	—
	受取固定・支払変動	—	—	—	—	—	—	—	—
	受取変動・支払固定	—	—	—	—	—	—	—	—
	合 計	—	—	—	1,487	—	—	—	5,484

(注) 主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

(2) 通貨関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種 類	2022年度				2023年度			
		主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時 価	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時 価
原則的 処理方法	通貨スワップ	外貨建の貸出金、有価証券、預金、外国為替等の金融資産・負債	67,647	—	1,642	外貨建の貸出金、有価証券、預金、外国為替等の金融資産・負債	95,446	28,558	△3,729
	為替予約		—	—	—		—	—	—
	その他		—	—	—		—	—	—
為替予約等の 振当処理等	通貨スワップ	—	—	—	—	—	—	—	—
	為替予約	—	—	—	—	—	—	—	—
	合 計	—	—	—	1,642	—	—	—	△3,729

(注) 主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号 2020年10月8日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

(3) 株式関連取引 …… 該当事項はありません。

(4) 債券関連取引 …… 該当事項はありません。

■電子決済手段

該当事項はありません。

■暗号資産

該当事項はありません。

第125期（2023年度）資産の査定について

資産査定等報告書

（2024年3月末現在）

2024年3月31日現在の資産査定等の状況は以下のとおりであります。

（単位：億円）

債権の区分	金 額
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	90
危険債権	363
要管理債権	353
正常債権	40,256
合 計	41,062

- （注）1.債権のうち、外国為替、未収利息、及び仮払金につきましては、資産の自己査定基準に基づき、債務者区分を行っているものを対象としております。
2.決算後の計数を記載しております。
3.単位未満は四捨五入しております。

【破産更生債権及びこれらに準ずる債権】

自己査定における債務者区分「破綻先」及び「実質破綻先」に対する全債権。

【危険債権】

自己査定における債務者区分「破綻懸念先」に対する全債権。

【要管理債権】

自己査定における債務者区分「要注意先」のうち、債権毎の区分で「三月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権。

【正常債権】

上記に該当しない債権。

【対象債権】

社債（ただし、当行保証の私募債に限る。）・貸出金・外国為替・未収利息・支払承諾見返・仮払金
貸借対照表に注記することとされている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は質貸借契約によるものに限る。）

2014年金融庁告示第7号に基づき、十八親和銀行の自己資本の充実の状況について以下によりご説明します。

(自己資本の構成に関する開示事項)	(以下のページに掲載しています)
自己資本の構成に関する開示事項	310
(定性的な開示事項)	(以下のページに掲載しています)
1. 自己資本調達手段の概要	309
2. 自己資本の充実度に関する評価方法の概要	27
3. 信用リスクに関する事項	
(1) リスク管理の方針および手続の概要	
・リスクを確実に認識し、評価・計測し、報告するための態勢	25,26,27,28,29
・貸倒引当金の計上基準	282
・内部格付手法を部分的に適用していないエクスポージャーの性質および適切な手法に完全に移行させるための計画	28
(2) 標準的手法が適用されるポートフォリオに関する事項	
・リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関等の名称	28
・エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイト判定に使用する適格格付機関等の名称	28
・内部格付手法のポートフォリオに分類する場合の基準	329
(3) 内部格付手法が適用されるポートフォリオに関する事項	
・使用する内部格付手法の種類	27,28
・内部格付制度の概要	
* 内部格付制度の構造	29,30,31
* 自己資本比率算出目的以外での各種推計値の利用状況	31
* 内部格付制度の管理と検証手続	31
・資産区分ごとの格付付与手続の概要	
* 格付付与手続の概要	29,30,31
* PD、LGDおよびEADの推計および検証に用いた定義、方法およびデータ	30,31
4. 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針および手続の概要	32
5. 派生商品取引および長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針および手続の概要	33
6. 証券化エクスポージャーに関する事項	
(1) リスク管理の方針およびリスク特性の概要、体制の整備およびその運用状況の概要	34
(2) 信用リスク削減手法として証券化取引を用いる場合の方針	〔該当事項はありません〕
(3) 信用リスク・アセットの額の算出に使用する方式の名称	34
(4) マーケット・リスク相当額の算出に使用する方式の名称	〔マーケット・リスクは算入していません〕
(5) 銀行（連結グループ）が証券化目的導管体を用いて第三者の資産に係る証券化取引を行った場合には、当該証券化目的導管体の種類および当該銀行（連結グループ）が当該証券化取引に係る証券化エクスポージャーを保有しているかどうかの別	〔該当事項はありません〕
(6) 銀行（連結グループ）の子法人等（連結子法人等を除く。）および関連法人等のうち、当該銀行（連結グループ）が行った証券化取引（銀行（連結グループ）が証券化目的導管体を用いて行った証券化取引を含む。）に係る証券化エクスポージャーを保有しているものの名称	〔該当事項はありません〕
(7) 証券化取引に関する会計方針	34
(8) 証券化エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関の名称	28
(9) 内部評価方式を用いている場合には、その概要	〔内部評価方式は使用していません〕
(10) 定量的な情報に重要な変更が生じた場合には、その内容	〔該当事項はありません〕
6-2. CVAリスクに関する事項	
(1) CVAリスク相当額の算出に使用する手法の名称および各手法により算出される対象取引の概要	34
(2) CVAリスクの特性およびCVAに関するリスク管理の体制の概要	34
(3) SA-CVAを使用する場合は、次に掲げる事項	
・CVAに関するリスク管理体制の概要	〔SA-CVAは使用していません〕
・CVAに関するリスク管理体制が有効に機能するための経営管理体制の概要	
7. マーケット・リスクに関する事項	〔マーケット・リスクは算入していません〕
8. オペレーショナル・リスクに関する事項	
(1) リスク管理の方針および手続の概要	38
(2) BI（事業規模指標）の算出方法	314
(3) ILM（内部損失乗数）の算出方法	314
(4) BIの算出から除外した連結子法人等または事業部門の有無	〔該当事項はありません〕
(5) ILMの算出から除外した特殊損失の有無	〔該当事項はありません〕
9. 株式等エクスポージャーに関するリスク管理に関する事項	
(1) リスク管理の方針および手続の概要	36
(2) 重要な会計方針	282
10. 金利リスクに関する事項	
(1) リスク管理の方針および手続の概要	35
(2) 金利リスクの算定手法の概要	35,327

(定量的な開示事項)	(単体の資料を本編の 以下のページに掲載しています)	
	単体	
1. 自己資本の充実度に関する事項		
(1) リスク・アセットの額および所要自己資本の額	311,312	
(2) オペレーショナル・リスク損失の推移、BICの構成要素、オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本額の概要	313,314	
2. 信用リスクに関する事項		
(1) 信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高およびエクスポージャーの主な種類別の内訳	315	
(2) 一般貸倒引当金、個別貸倒引当金および特定海外債権引当勘定の期末残高および期中の増減額	315,316	
(3) 業種別の貸出金償却の額	316	
(4) 標準的手法が適用されるエクスポージャーのポートフォリオの区分およびリスク・ウェイトの区分ごとの内訳		
・ポートフォリオの区分ごとの、信用リスク削減手法の効果を勘案する前後のオン・バランスシートのエクスポージャーの額、信用リスク削減手法の効果を勘案およびCCFを適用する前後のオフ・バランス取引のエクスポージャーの額ならびに信用リスク・アセットの額およびリスク・ウェイトの加重平均値	317,318	
・ポートフォリオの区分ごとの、信用リスク削減手法の効果を勘案およびCCFを適用した後のエクスポージャーの額およびリスク・ウェイトの区分ごとの内訳	319,320	
・リスク・ウェイトの区分ごとの、信用リスク削減手法の効果を勘案する前のオン・バランスシートのエクスポージャーの額、信用リスク削減手法の効果を勘案およびCCFを適用する前のオフ・バランス取引のエクスポージャーの額ならびにCCFの加重平均値および信用リスク削減手法の効果を勘案およびCCFを適用した後のエクスポージャーの額	321	
(5) 内部格付手法が適用されるエクスポージャーのうち、スロットティング・クライテリアに割当てられた特定貸付債権について、リスク・ウェイトの区分ごとの残高	322	
(6) 内部格付手法が適用されるポートフォリオに関する事項		
・事業法人等向けエクスポージャーについての、債務者格付ごとのPDの推計値、LGDの推計値、Eldefaultの推計値の加重平均値、リスク・ウェイトの加重平均値、オン・バランス資産項目のEADの推計値、オフ・バランス資産項目のEADの推計値、コミットメントの未引出額および当該未引出額に乗ずる掛目の加重平均値	322	
・リテール向けエクスポージャーについての、プール単位でのPDの推計値、LGDの推計値、Eldefaultの推計値の加重平均値、リスク・ウェイトの加重平均値、オン・バランス資産項目のEADの推計値、オフ・バランス資産項目のEADの推計値、コミットメントの未引出額および当該未引出額に乗ずる掛目の推計値の加重平均値	323	
(7) 内部格付手法を適用する資産区分ごとの直前期における損失の実績値および当該実績値と過去の実績値との対比ならびに要因分析	323	
(8) 内部格付手法を適用する資産区分ごとの長期にわたる損失額の推計値と実績値との対比	323	
3. 信用リスク削減手法に関する事項		
(1) 適格金融資産担保または適格資産担保を信用リスク削減手法として適用したエクスポージャーの額	324	
(2) 保証またはクレジット・デリバティブが適用されたエクスポージャーの額	324	
4. 派生商品取引および長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項	325	
5. 証券化エクスポージャーに関する事項		
(1) 銀行（連結グループ）がオリジネーターである場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項	〔該当事項はありません〕	
(2) 銀行（連結グループ）が投資家である場合における信用リスク・アセットの算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項		
・保有する証券化エクスポージャーの額および主な原資産の種類別の内訳	325	
・保有する証券化エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの残高および所要自己資本の額	325	
・自己資本比率告示第248条ならびに第248条の4第1項第1号および第2号の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額および主な原資産の種類別の内訳	325	
・保有する再証券化エクスポージャーに対する信用リスク削減手法の適用の有無および保証人ごとまたは当該保証人に適用されるリスク・ウェイトの区分ごとの内訳	〔該当事項はありません〕	
(3) 銀行（連結グループ）がオリジネーターである場合におけるマーケット・リスク相当額の算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項	〔該当事項はありません〕	
(4) 銀行（連結グループ）が投資家である場合におけるマーケット・リスク相当額の算出対象となる証券化エクスポージャーに関する事項	〔該当事項はありません〕	
5-2. CVAリスクに関する事項	326	
6. マーケット・リスクに関する事項	〔該当事項はありません〕	
7. 株式等エクスポージャーに関する事項	326	
8. 信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーの額	326	
9. 金利リスクに関する事項	327	
10. 内部格付手法と標準的手法の比較に関する事項	328	
11. 期待エクスポージャー方式とSA-CCRの比較に関する事項（期待エクスポージャー方式を使用する場合のみ）	〔該当事項はありません〕	
12. 内部モデル方式と標準的方式または簡易的方式との比較に関する事項（内部モデル方式を使用する場合のみ）	〔該当事項はありません〕	
(バーゼルⅢの用語解説)	124	

自己資本調達手段の概要

2024年3月末の自己資本調達手段の概要は以下のとおりです。

■株式等の状況

発行主体	資本調達 手段の種類	コア資本に係る 基礎項目の額に 算入された額 (百万円)	配当率または利率 (公表されて いるものに 限る)	配当等停止条項がある場合、その概要
十八親和銀行	普通株式	221,490	—	—

■自己資本の構成に関する開示事項〔国内基準〕

(単位：百万円)

		2022年度	2023年度
コア資本に係る 基 礎 項 目	普通株式または強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	227,672	221,490
	うち 資 本 金 お よ び 資 本 剰 余 金 の 額	118,075	118,075
	うち 利 益 剰 余 金 の 額	111,246	118,809
	うち 自 己 株 式 の 額(△)	—	—
	うち 社 外 流 出 予 定 額(△)	1,649	15,394
	うち 上 記 以 外 に 該 当 す る も の の 額	—	—
	普通株式または強制転換条項付優先株式に係る株式引受権および新株予約権の合計額	—	—
	コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	26,225	7,284
	うち 一 般 貸 倒 引 当 金 コ ア 資 本 算 入 額	26,225	—
	うち 適 格 引 当 金 コ ア 資 本 算 入 額	—	7,284
	適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
	適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
	公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本 調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
	土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセント に相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	1,228	—
コ ア 資 本 に 係 る 基 礎 項 目 の 額 (イ)		255,126	228,774
コア資本に係る 調 整 項 目	無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	2,644	2,388
	うちのれんに係るものの額	—	—
	うちのれんおよびモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	2,644	2,388
	繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	1,066	1,541
	適 格 引 当 金 不 足 額	—	—
	証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
	負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
	前 払 年 金 費 用 の 額	6,002	7,416
	自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	—	—
	意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
	少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—	—
	特定項目に係る十パーセント基準超過額	—	—
	うちその他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
	うちモーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
	うち繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—
	特定項目に係る十五パーセント基準超過額	—	—
	うちその他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
	うちモーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
	うち繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—
コ ア 資 本 に 係 る 調 整 項 目 の 額 (ロ)		9,713	11,346
自 己 資 本	自己資本の額 ((イ)－(ロ))	245,413	217,427
	(ハ)		
リ ス ク ・ ア セ ッ ト 等	信用リスク・アセットの額の合計額	2,626,139	1,769,890
	うち経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	27,299	—
	うち他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—
	うち 上 記 以 外 に 該 当 す る も の の 額	27,299	—
	マーケット・リスク相当額を八パーセントで除して得た額	—	—
	オペレーショナル・リスク相当額を八パーセントで除して得た額	97,716	56,189
	資 本 フ ロ ア 調 整 額	—	281,282
	リ ス ク ・ ア セ ッ ト 等 の 額 の 合 計 額 (ニ)	2,723,856	2,107,362
自己資本比率	自己資本比率 ((ハ)/(ニ)×100 (%))	9.00%	10.31%

※2023年3月末からパーゼルⅢ最終化の早期適用をしています。

※信用リスク・アセットの額について、2022年度は標準的手法、2023年度は基礎的内部格付手法により算出しています。

■自己資本の充実度に関する事項（リスク・アセットの額および所要自己資本の額）

（単位：百万円）

	告示で定める リスク・ウェイト等	2022年度	
		リスク・アセットの額	所要自己資本の額
信用リスク・アセットの額および信用リスクに対する所要自己資本の額	—	2,626,139	105,045
信用リスク・アセットの額および信用リスクに対する所要自己資本の額（①、②の額を除く）	—	2,489,511	99,580
オフ・バランス項目	[リスク・ウェイト（%）]	2,454,404	98,176
現金	0	—	—
我が国の中央政府および中央銀行向け	0	—	—
外国の中央政府および中央銀行向け	0～150	—	—
国際決済銀行等向け	0	—	—
我が国の地方公共団体向け	0	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	20～150	—	—
国際開発銀行向け	0～150	—	—
地方公共団体金融機構向け	10～20	100	4
我が国の政府関係機関向け	10～20	11,505	460
地方＝公社向け	20	54	2
金融機関、第一種金融商品取引業者および保険会社向け	20～150	209,819	8,392
うち第一種金融商品取引業者および保険会社向け	20～150	4,567	182
カバード・ボンド向け	10～100	—	—
法人等向け（特定貸付債権向けを含む）	20～150	875,374	35,014
うち特定貸付債権向け	20～150	14,024	560
中堅中小企業等向けおよび個人向け	45～100	135,127	5,405
うちトランザクター向け	45	—	—
不動産関連向け	20～150	784,775	31,391
うち自己居住用不動産等向け	20～75	464,417	18,576
うち賃貸用不動産向け	30～150	226,537	9,061
うち事業用不動産関連向け	70～150	91,566	3,662
うちその他不動産関連向け	60	917	36
うちADC向け	100～150	1,335	53
劣後債権およびその他資本性証券等	150（注2）	6,052	242
延滞等向け（自己居住用不動産等向けを除く）	50～150	74,510	2,980
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	100	6,259	250
取立未済手形	20	—	—
信用保証協会等による保証付	0～10	9,345	373
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	10	—	—
株式等	250～400	37,496	1,499
うち投機的な非上場株式に対する投資に該当する株式等エクスポージャー	400（注3）	—	—
うち上記に該当しない株式等エクスポージャー	250（注4）	37,496	1,499
上記以外	100～1250	185,179	7,407
証券化（オリジネーターの場合）	20～1250	—	—
うち再証券化	40～1250	—	—
証券化（オリジネーター以外の場合）	20～1250	1,530	61
うち再証券化	40～1250	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー（①）	—	117,272	4,690
うちルック・スルー方式	—	117,272	4,690
うちマンドート方式	—	—	—
うち蓋然性方式（リスク・ウェイト:250%）	—	—	—
うち蓋然性方式（リスク・ウェイト:400%）	—	—	—
うちフォールバック方式（リスク・ウェイト:1250%）	—	—	—
オフ・バランス項目	[想定元本額に乘じる掛目（%）]	152,376	6,095
任意の時期に無条件で取消可能または自動的に取消可能なコミットメント	10	8,241	329
コミットメント	40	10,084	403
短期の貿易関連偶発債務	20	41	1
特定の取引に係る偶発債務	50	2,433	97
うち経過措置を適用する元本補てん信託契約	50	—	—
NIFまたはRUF	50	—	—
信用供与に直接的に代替する偶発債務	100	10,670	426
うち借入金の保証	100	10,670	426
うち有価証券の保証	100	—	—
うち手形引受	100	—	—
うち経過措置を適用しない元本補てん信託契約	100	—	—
うちクレジット・デリバティブのプロテクション提供	100	—	—
買戻条件付資産売却または求償権付資産売却等（控除後）	—	—	—
買戻条件付資産売却または求償権付資産売却等（控除前）	100	—	—
控除額（△）	—	—	—
先物購入、先渡預金、部分払込株式または部分払込債券	100	103	4
有価証券の買付、現金若しくは有価証券による担保の提供または有価証券の買戻条件付売却若しくは売戻条件付購入	100	113,641	4,545
派生商品取引	—	7,159	286
長期決済期間取引	—	—	—
未決済取引	—	—	—
証券化エクスポージャーに係る適格流動性補完および適格なサービサー・キャッシュ・アドバンス	0～100	—	—
上記以外のオフ・バランスの証券化エクスポージャー	100	—	—
CVAリスク相当額をパーセントで除して得た額およびCVAリスクに対する所要自己資本の額（②）	—	19,354	774
限定的なBA-CVA	—	19,354	774
中央清算機関関連エクスポージャー	—	3	0
マーケット・リスク相当額の合計額をパーセントで除して得た額およびマーケット・リスクに対する所要自己資本の額	—	マーケット・リスク は算入していません	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額をパーセントで除して得た額およびオペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額	—	97,716	3,908
単体リスク・アセットの合計額および単体総所要自己資本額（注1）	—	2,723,856	108,954

※2022年度の信用リスク・アセットの額については、標準的手法により算出しています。

（注1）総所要自己資本額は、次の算式に基づき算出しています。

（総所要自己資本の額）＝（自己資本比率算式の分母の額）×4%

（注2）経過措置の適用により、リスク・ウェイト100%を適用しています。

（注3）経過措置の適用により、リスク・ウェイト100%を適用しています。

（注4）経過措置の適用により、リスク・ウェイト100%を適用しています。

	2023年度	
	リスク・アセットの額	所要自己資本の額
信用リスク・アセットの額および信用リスクに対する所要自己資本の額	1,769,890	177,250
信用リスク・アセットの額および信用リスクに対する所要自己資本の額（①、②、③の額を除く）	1,359,649	143,629
標準的手法が適用されるポートフォリオ（注1）	2,185	174
銀行資産のうち内部格付手法の適用除外資産	2,185	174
銀行資産のうち内部格付手法の段階的適用資産	—	—
内部格付手法が適用されるポートフォリオ（注2）	1,767,704	177,076
事業法人向けエクスポージャー（注3）	862,843	98,380
ソブリン向けエクスポージャー	38,350	3,090
金融機関等向けエクスポージャー	80,134	6,555
居住用不動産向けエクスポージャー	117,157	11,827
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	11,418	1,462
その他リテール向けエクスポージャー	46,532	5,988
証券化エクスポージャー	1,137	91
うち再証券化	—	—
株式等エクスポージャー（①）	100,272	8,021
うち投機的な非上場株式に対する投資に該当する株式等エクスポージャー	—	—
うち上記に該当しない株式等エクスポージャー	100,272	8,021
信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー（②）	298,764	24,703
ルック・スルー方式	298,764	24,703
マンドート方式	—	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト：250%）	—	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト：400%）	—	—
フォールバック方式（リスク・ウェイト：1250%）	—	—
購入債権	40,683	3,323
その他資産等（注4）	159,203	12,736
中央清算機関関連エクスポージャー	3	0
CVAリスク相当額をパーセントで除して得た額およびCVAリスクに対する所要自己資本の額（③）	11,203	896
限定的なBA-CVA	11,203	896
マーケット・リスク相当額の合計額をパーセントで除して得た額およびマーケット・リスクに対する所要自己資本の額	〔マーケット・リスクは〕 算入していません	
簡易的方式		
標準的方式		
内部モデル方式		
オペレーショナル・リスク相当額の合計額をパーセントで除して得た額およびオペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額	56,189	4,495
資本フロア調整額	281,282	22,502
単体リスク・アセットの合計額および単体総所要自己資本額（注5）	2,107,362	168,588

※2023年度の信用リスク・アセットの額については、基礎的内部格付手法により算出しています。

（注1）標準的手法が適用されるポートフォリオについては、次の算式に基づき算出しています。

（所要自己資本の額）＝（信用リスク・アセットの額）×8%

（注2）内部格付手法が適用されるポートフォリオについては、次の算式に基づき算出しています。

（所要自己資本の額）＝（信用リスク・アセットの額）×8%＋（期待損失額）

（注3）事業法人向けエクスポージャーには、中堅中小企業向けエクスポージャーおよび特定貸付債権を含みます。

（注4）その他資産等には、経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるエクスポージャーおよび特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー等を含んでいます。

（注5）総所要自己資本額は、次の算式に基づき算出しています。

（総所要自己資本の額）＝（自己資本比率算式の分母の額）×8%

オペレーショナル・リスク損失の推移

2022年度

(単位：百万円、件)

項番		2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	直近10年の平均
二百万円を超える損失を集計したもの												
1	ネットの損失の合計額 (特殊損失控除前)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	損失の件数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	特殊損失の総額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	特殊損失の件数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	ネットの損失の合計額 (特殊損失控除後)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
千万円を超える損失を集計したもの												
6	ネットの損失の合計額 (特殊損失控除前)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	損失の件数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8	特殊損失の総額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	特殊損失の件数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	ネットの損失の合計額 (特殊損失控除後)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の計測に関する事項												
11	ILMの算出への内部損失 データ利用の有無	無	無	無	無	無	—	—	—	—	—	無
12	項番11で内部損失データを 利用していない場合は、 内部損失データの承認基準 充足の有無	有	有	有	有	有	—	—	—	—	—	有

※項番11記載のとおり、ILM算出における内部損失データ利用が無いため、損失推移欄は"—"としております。

2023年度

(単位：百万円、件)

項番		2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	直近10年の平均
二百万円を超える損失を集計したもの												
1	ネットの損失の合計額 (特殊損失控除前)	23	27	12	58	17	—	—	—	—	—	23
2	損失の件数	2	2	2	4	2	—	—	—	—	—	2
3	特殊損失の総額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	特殊損失の件数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	ネットの損失の合計額 (特殊損失控除後)	23	27	12	58	17	—	—	—	—	—	23
千万円を超える損失を集計したもの												
6	ネットの損失の合計額 (特殊損失控除前)	21	19	—	49	11	—	—	—	—	—	16
7	損失の件数	1	1	—	2	1	—	—	—	—	—	0
8	特殊損失の総額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	特殊損失の件数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	ネットの損失の合計額 (特殊損失控除後)	21	19	—	49	11	—	—	—	—	—	16
オペレーショナル・リスク相当額の計測に関する事項												
11	ILMの算出への内部損失 データ利用の有無	有	有	有	有	有	有	—	—	—	—	有
12	項番11で内部損失データを 利用していない場合は、 内部損失データの承認基準 充足の有無	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

BICの構成要素

2022年度

(単位：百万円)

項番		2022年度	2021年度	2020年度
1	ILDC（金利要素）	44,911		
2	資金運用収益	46,731	42,522	43,666
3	資金調達費用	6,133	637	711
4	金利収益資産	7,124,383	6,226,911	6,061,003
5	受取配当金	2,945	3,124	3,226
6	SC（役務要素）	16,423		
7	役務取引等収益	12,799	12,801	12,267
8	役務取引等費用	5,868	5,964	7,187
9	その他業務収益	584	1,084	784
10	その他業務費用	850	2,049	8,502
11	FC（金融商品要素）	3,809		
12	特定取引勘定のネット損益 (特定取引等のネット損益)	3	2	3
13	特定取引勘定以外の勘定のネット損益 (特定取引等以外の勘定のネット損益)	△10,169	930	319
14	BI（注）	65,144		
15	BIC（事業規模要素）	7,817		
16	除外特例の対象となる連結子法人等または事業部門を含むBI	65,144		
17	除外特例によって除外したBI	—		

2023年度

(単位：百万円)

項番		2023年度	2022年度	2021年度
1	ILDC（金利要素）	44,802		
2	資金運用収益	60,304	46,731	42,522
3	資金調達費用	18,392	6,133	637
4	金利収益資産	7,625,982	7,124,383	6,226,911
5	受取配当金	3,943	2,945	3,124
6	SC（役務要素）	14,451		
7	役務取引等収益	14,019	12,799	12,801
8	役務取引等費用	5,977	5,868	5,964
9	その他業務収益	736	584	1,084
10	その他業務費用	833	850	2,049
11	FC（金融商品要素）	4,266		
12	特定取引勘定のネット損益 (特定取引等のネット損益)	6	3	2
13	特定取引勘定以外の勘定のネット損益 (特定取引等以外の勘定のネット損益)	△1,687	△10,169	930
14	BI（注）	63,520		
15	BIC（事業規模要素）	7,622		
16	除外特例の対象となる連結子法人等または事業部門を含むBI	63,520		
17	除外特例によって除外したBI	—		

(注) BIは、ILDC、SC、FCの合計です。

オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本額の概要

(単位：百万円)

項番		2022年度	2023年度
1	BIC	7,817	7,622
2	ILM（注）	1.00	0.58
3	オペレーショナル・リスク相当額	7,817	4,495
4	オペレーショナル・リスク・アセットの額	97,716	56,189

(注) 2022年度のILMIは、自己資本比率告示第306条第1項第2号ロの方法で算出しています。

2023年度のILMIは、自己資本比率告示第306条第1項第2号イの方法で算出しています。

■信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高およびエクスポージャーの主な種類別の内訳（単位：百万円）

	2022年度					2023年度				
	期末残高	うち 貸出金等 (注1)	うち債券	うちOTC デリバティブ (注2)	延滞 エクスポージャー	期末残高	うち 貸出金等 (注1)	うち債券	うちOTC デリバティブ (注2)	デフォルトした エクスポージャー
信用リスクに関するエクスポージャー	8,165,586	7,088,947	1,033,400	43,237	75,753	8,770,826	7,525,299	1,220,354	25,172	65,366
標準の手法が適用されるエクスポージャー	8,165,586	7,088,947	1,033,400	43,237	75,753	8,770,826	7,525,299	1,220,354	25,172	65,366
内部格付手法が適用されるエクスポージャー						8,768,609	7,523,082	1,220,354	25,172	65,366
地域別										
国内	7,920,212	7,006,661	870,673	42,878	75,671	8,490,826	7,468,588	997,484	24,753	65,366
国外	245,373	82,286	162,727	359	82	277,783	54,493	222,870	419	—
業種別										
製造業	235,454	222,290	13,086	77	6,777	204,947	190,539	14,405	2	8,877
農業、林業	12,998	12,998	—	—	390	12,598	12,598	—	—	327
漁業	15,541	15,491	50	—	983	15,743	15,603	140	—	272
鉱業、採石業、砂利採取業	11,967	11,626	300	40	153	11,138	11,011	100	27	—
建設業	104,019	101,072	2,946	—	1,122	103,043	100,165	2,877	—	1,786
電気・ガス・熱供給・水道業	91,176	88,772	2,404	—	4	95,516	94,313	1,203	—	—
情報通信業	22,138	21,509	593	34	428	16,655	16,074	550	30	348
運輸業、郵便業	131,395	129,418	1,184	792	6,956	129,169	126,763	1,019	1,387	6,198
卸売業、小売業	299,114	285,183	13,247	684	18,440	299,046	278,629	19,728	689	18,605
金融業、保険業	2,007,927	1,767,262	221,362	19,302	67	1,195,279	986,682	198,210	10,386	—
不動産業、物品賃貸業	547,343	533,625	13,718	—	6,141	595,270	580,363	14,906	—	6,353
その他各種サービス業	394,944	354,392	40,385	166	26,409	351,627	342,266	9,263	97	21,699
国・地方公共団体	3,257,987	2,533,866	724,121	—	—	4,689,248	3,731,300	957,947	—	—
その他 (注3)	1,033,577	1,011,436	—	22,140	7,876	1,049,322	1,036,769	—	12,552	897
残存期間別 (注4)										
1年以下	4,308,214	4,174,708	131,926	1,579	31,769	4,708,174	4,651,495	55,921	756	34,176
1年超3年以下	415,924	299,796	115,692	435	3,554	422,686	284,574	137,078	1,033	2,629
3年超5年以下	432,283	331,060	99,956	1,266	4,174	552,833	340,722	210,477	1,633	3,787
5年超7年以下	313,321	250,621	62,580	119	3,761	415,969	327,265	88,196	507	5,261
7年超10年以下	595,230	446,861	147,944	424	7,629	526,855	357,515	169,233	106	5,695
10年超	1,899,468	1,406,822	475,298	17,347	24,790	1,967,379	1,399,352	559,446	8,580	13,764
期間の定めのないもの	201,142	179,077	—	22,065	73	174,709	162,156	—	12,552	50

※2022年度は標準の手法、2023年度は基礎的内部格付手法を適用しています。

※信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーおよび証券化エクスポージャーは含んでいません。

(注1) 「貸出金等」には貸出金の他に、株式・預け金等のオン・バランス取引とデリバティブを除くオフ・バランス取引（コミットメント未実行額等）を含んでいます。

(注2) OTCデリバティブの期末残高については、SA-CCRにより算出した信用リスク削減効果後の与信相当額を計上しています。

(注3) 「その他」には、個人向けエクスポージャーの他、業種区分に分類することが困難なエクスポージャー等を含んでいます。

(注4) 残存期間は、最終期日により判定しています。

■一般貸倒引当金、個別貸倒引当金および特定海外債権引当勘定の期末残高および期中の増減額（単位：百万円）

	2022年度				2023年度			
	期首残高	期中増加額	期中減少額	期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額	期末残高
一般貸倒引当金	24,127	26,225	24,127	26,225	26,225	26,989	26,225	26,989
個別貸倒引当金	20,606	14,556	20,606	14,556	14,556	16,054	14,556	16,054
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	44,734	40,782	44,734	40,782	40,782	43,043	40,782	43,043

※信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーおよび証券化エクスポージャーに対する引当金は含んでいません。

■個別貸倒引当金の地域別、業種別期末残高および期中の増減額

(単位：百万円)

	2022年度				2023年度			
	期首残高	期中増加額	期中減少額	期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額	期末残高
個別貸倒引当金	20,606	14,556	20,606	14,556	14,556	16,054	14,556	16,054
地域別								
国内	20,606	14,556	20,606	14,556	14,556	16,054	14,556	16,054
国外	—	—	—	—	—	—	—	—
業種別								
製造業	1,795	1,747	1,795	1,747	1,747	2,335	1,747	2,335
農業、林業	150	89	150	89	89	154	89	154
漁業	131	152	131	152	152	37	152	37
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—	—	—
建設業	868	238	868	238	238	851	238	851
電気・ガス・熱供給・水道業	831	—	831	—	—	0	—	0
情報通信業	9	29	9	29	29	58	29	58
運輸業、郵便業	238	158	238	158	158	193	158	193
卸売業、小売業	8,835	7,694	8,835	7,694	7,694	6,902	7,694	6,902
金融業、保険業	20	33	20	33	33	1	33	1
不動産業、物品賃貸業	1,327	913	1,327	913	913	816	913	816
その他各種サービス業	6,125	3,164	6,125	3,164	3,164	4,310	3,164	4,310
国・地方公共団体	—	—	—	—	—	—	—	—
その他（注）	271	333	271	333	333	391	333	391

※信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーおよび証券化エクスポージャーに対する個別貸倒引当金は含んでいません。

(注)「その他」には、個人向けエクスポージャーの他、業種区分に分類することが困難なエクスポージャー等に対する個別貸倒引当金を含んでいます。

■業種別の貸出金償却の額

(単位：百万円)

業 種	2022年度	2023年度
製造業	58	—
農業、林業	—	—
漁業	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—
建設業	—	—
電気・ガス・熱供給・水道業	364	—
情報通信業	—	—
運輸業、郵便業	114	—
卸売業、小売業	0	26
金融業、保険業	—	—
不動産業、物品賃貸業	0	20
その他各種サービス業	0	80
国・地方公共団体	—	—
その他（注）	0	0
合 計	537	127

※信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーおよび証券化エクスポージャーに対する貸出金償却の額は含んでいません。

(注)「その他」には、個人向けエクスポージャーの他、業種区分に分類することが困難なエクスポージャー等に対する貸出金償却の額を含んでいます。

■標準的手法が適用されるエクスポージャーのポートフォリオの区分およびリスク・ウェイトの区分ごとの内訳

I.ポートフォリオの区分ごとのエクスポージャーの額ならびに信用リスク・アセットの額

2022年度

(単位：百万円)

	信用リスク削減手法勘案前		信用リスク削減手法勘案後		信用リスク・アセットの額	リスク・ウェイトの加重平均値
	オン・バランス資産項目	CCF適用前のオフ・バランス資産項目	オン・バランス資産項目	CCF適用後のオフ・バランス資産項目		
日本国政府および日本銀行向け	2,539,935	—	2,539,935	—	—	0.00%
外国の中央政府および中央銀行向け	149,202	—	149,202	—	—	0.00%
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	552,001	168,478	552,001	16,847	—	0.00%
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	9,719	—	9,719	—	100	1.03%
我が国の政府関係機関向け	154,332	52	154,332	5	11,506	7.46%
地方三公社向け	844	—	844	—	54	6.47%
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—
金融機関、第一種金融商品取引業者および保険会社向け	1,044,953	729,238	1,044,953	728,350	329,162	18.56%
うち、第一種金融商品取引業者および保険会社向け	18,828	142,651	18,828	141,765	23,876	14.87%
カバード・ボンド向け	—	—	—	—	—	—
法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）	1,186,263	55,132	1,155,135	22,187	895,993	76.10%
うち、特定貸付債権向け	15,343	4,721	15,343	1,888	16,310	94.65%
劣後債権およびその他資本性証券等	6,052	—	6,052	—	6,052	100.00%
株式等	37,496	103	37,496	103	37,599	100.00%
中堅中小企業等向けおよび個人向け	190,288	135,478	183,070	14,090	142,289	72.17%
うち、トランザクター向け	—	112,759	—	11,275	5,074	45.00%
不動産関連向け	1,083,783	3,646	1,082,489	2,118	787,513	72.61%
うち、自己居住用不動産等向け	770,584	—	769,857	—	464,417	60.33%
うち、賃貸用不動産向け	229,743	—	229,368	—	226,537	98.77%
うち、事業用不動産関連	81,002	2,846	80,844	1,798	93,825	113.53%
うち、その他不動産関連	1,563	—	1,529	—	917	60.00%
うち、ADC向け	890	800	890	320	1,815	150.00%
延滞等（自己居住用不動産等向けエクスポージャーを除く。）	53,523	2,313	52,364	1,610	76,913	142.50%
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	6,683	—	6,682	—	6,259	93.68%
現金	59,290	—	59,290	—	—	0.00%
取立未済手形	—	—	—	—	—	—
信用保証協会等による保証付	154,409	728	154,409	72	9,352	6.05%
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—
合 計	7,228,780	1,095,170	7,187,980	785,386	2,302,797	28.88%

※自己資本比率告示第55条から第76条までおよび第77条の2の規定に該当するエクスポージャーを計上しています。

※リスク・ウェイトの加重平均値は、信用リスク・アセットの額を信用リスク削減手法の効果を勘案した後のオン・バランス資産項目および、CCFを適用した後および信用リスク削減手法の効果を勘案した後のオフ・バランス資産項目の合計額で除した割合です。

2023年度

(単位：百万円)

	信用リスク削減手法勘案前		信用リスク削減手法勘案後		信用リスク・アセットの額	リスク・ウェイトの加重平均値
	オン・バランス資産項目	CCF適用前のオフ・バランス資産項目	オン・バランス資産項目	CCF適用後のオフ・バランス資産項目		
日本国政府および日本銀行向け	—	—	—	—	—	—
外国の中央政府および中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	—	—	—	—	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—
金融機関、第一種金融商品取引業者および保険会社向け	44	—	44	—	13	30.00%
うち、第一種金融商品取引業者および保険会社向け	—	—	—	—	—	—
カバード・ボンド向け	—	—	—	—	—	—
法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）	28	—	28	—	28	100.00%
うち、特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	—
劣後債権およびその他資本性証券等	—	—	—	—	—	—
株式等	—	—	—	—	—	—
中堅中小企業等向けおよび個人向け	—	—	—	—	—	—
うち、トランザクター向け	—	—	—	—	—	—
不動産関連向け	—	—	—	—	—	—
うち、自己居住用不動産等向け	—	—	—	—	—	—
うち、賃貸用不動産向け	—	—	—	—	—	—
うち、事業用不動産関連	—	—	—	—	—	—
うち、その他不動産関連	—	—	—	—	—	—
うち、ADC向け	—	—	—	—	—	—
延滞等（自己居住用不動産等向けエクスポージャーを除く。）	—	—	—	—	—	—
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	—	—	—	—	—
現金	—	—	—	—	—	—
取立未済手形	—	—	—	—	—	—
信用保証協会等による保証付	—	—	—	—	—	—
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—
合 計	73	—	73	—	41	57.11%

※標準的手法が適用されるエクスポージャーのうち自己資本比率告示第55条から第76条までおよび第77条の2の規定に該当するエクスポージャーを計上しています。

※リスク・ウェイトの加重平均値は、信用リスク・アセットの額を信用リスク削減手法の効果を勘案した後のオン・バランス資産項目および、CCFを適用した後および信用リスク削減手法の効果を勘案した後のオフ・バランス資産項目の合計額で除した割合です。

Ⅱ.ポートフォリオの区分ならびにリスク・ウェイトの区分ごとのエクスポージャーの額

2022年度

(単位：百万円)

	CCF適用後および信用リスク削減手法勘案後のエクスポージャーの額									
	0%	20%	50%	100%	150%	その他	合計			
日本国政府および日本銀行向け	2,539,935	—	—	—	—	—	2,539,935			
外国の中央政府および中央銀行向け	149,202	—	—	—	—	—	149,202			
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—	—			
	0%	10%	20%	50%	100%	150%	その他	合計		
我が国の地方公共団体向け	568,849	—	—	—	—	—	—	568,849		
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—	—	—		
地方公共団体金融機構向け	8,719	1,000	—	—	—	—	—	9,719		
我が国の政府関係機関向け	39,273	115,064	—	—	—	—	—	154,337		
地方三公社向け	571	—	273	—	—	—	—	844		
	0%	20%	30%	50%	100%	150%	その他	合計		
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—		
	20%	30%	40%	50%	75%	100%	150%	その他	合計	
金融機関、第一種金融商品取引業者および保険会社向け	1,446,129	83,552	—	1,051	—	—	9,563	233,006	1,773,303	
うち、第一種金融商品取引業者および保険会社向け	22,884	14,763	—	1,051	—	—	9,563	112,330	160,593	
	10%	15%	20%	25%	35%	50%	100%	その他	合計	
カバード・ボンド向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	20%	50%	75%	80%	85%	100%	130%	150%	その他	合計
法人等向け (特定貸付債権向けを含む。)	76,527	290,662	38,716	10,042	343,208	401,111	4,189	—	12,864	1,177,322
うち、特定貸付債権向け	—	338	—	10,042	—	2,660	4,189	—	—	17,231
	100%	150%	250%	400%	その他	合計				
劣後債権およびその他資本性証券等株式等	6,052	—	—	—	—	6,052				
	37,599	—	—	—	—	37,599				
	45%	75%	100%	その他	合計					
中堅中小企業等向けおよび個人向け	11,275	169,128	4,947	11,809	197,161					
	20%	25%	30%	40%	50%	70%	75%	その他	合計	
不動産関連向け うち、自己居住用不動産等向け	28,551	17,525	46,598	33,139	142,698	405,157	96,156	28	769,857	
	20%	31.25%	37.5%	50%	62.5%			その他	合計	
うち、抵当権が第二順位以下で 適格要件をみたすもの	—	11	0	15	15			—	43	
	30%	35%	45%	60%	75%	105%	150%	その他	合計	
不動産関連向け うち、賃貸用不動産向け	9,513	5,898	19,035	14,232	14,756	122,469	43,004	457	229,368	
	30%	43.75%	56.25%	75%	93.75%			その他	合計	
うち、抵当権が第二順位以下で 適格要件をみたすもの	—	—	72	72	323			—	469	
	70%	90%	110%	150%	その他	合計				
不動産関連向け うち、事業用不動産関連	5,644	5,108	48,778	15,115	7,996	82,643				
	70%	112.50%			その他	合計				
うち、抵当権が第二順位以下で 適格要件をみたすもの	—	7,953			—	7,953				
	60%	その他	合計							
不動産関連向け うち、その他不動産関連	1,529	—	1,529							
	60%	その他	合計							
うち、抵当権が第二順位以下で 適格要件をみたすもの	—	—	—							
	100%	150%	その他	合計						
不動産関連向け うち、ADC向け	—	1,210	—	1,210						
	50%	100%	150%	その他	合計					
延滞等 (自己居住用不動産等向け エクスポージャーを除く。)	2,144	1,976	49,170	682	53,974					
自己居住用不動産等向け エクスポージャーに係る延滞	845	5,836	—	—	6,682					
	0%	10%	20%	その他	合計					
現金	59,290	—	—	—	59,290					
取立未済手形	—	—	—	—	—					
信用保証協会等による保証付 株式会社地域経済活性化支 援機構等による保証付	60,955	93,526	—	—	154,482					

※自己資本比率告示第55条から第76条までおよび第77条の2の規定に該当するエクスポージャーを計上しています。

自己資本の充実の状況等について（単体）

2023年度

（単位：百万円）

	CCF適用後および信用リスク削減手法勘案後のエクスポージャーの額															
	0%		20%		50%		100%		150%		その他	合計				
日本国政府および日本銀行向け	—		—		—		—		—		—	—				
外国の中央政府および中央銀行向け	—		—		—		—		—		—	—				
国際決済銀行等向け	—		—		—		—		—		—	—				
	0%		10%		20%		50%		100%		150%	その他	合計			
我が国の地方公共団体向け	—		—		—		—		—		—	—	—			
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—		—		—		—		—		—	—	—			
地方公共団体金融機構向け	—		—		—		—		—		—	—	—			
我が国の政府関係機関向け	—		—		—		—		—		—	—	—			
地方三公社向け	—		—		—		—		—		—	—	—			
	0%		20%		30%		50%		100%		150%	その他	合計			
国際開発銀行向け	—		—		—		—		—		—	—	—			
	20%		30%		40%		50%		75%		100%	150%	その他	合計		
金融機関、第一種金融商品取引業者および保険会社向け	—		44		—		—		—		—	—	—	44		
うち、第一種金融商品取引業者および保険会社向け	—		—		—		—		—		—	—	—	—		
	10%		15%		20%		25%		35%		50%	100%	その他	合計		
カバード・ボンド向け	—		—		—		—		—		—	—	—	—		
	20%		50%		75%		80%		85%		100%	130%	150%	その他	合計	
法人等向け (特定貸付債権向けを含む。)	—		—		—		—		—		28	—	—	—	28	
うち、特定貸付債権向け	—		—		—		—		—		—	—	—	—	—	
	100%			150%			250%			400%			その他	合計		
劣後債権およびその他資本性証券等株式等	—			—			—			—			—	—	—	
	—			—			—			—			—	—	—	
	45%				75%				100%				その他		合計	
中堅中小企業等向けおよび個人向け	—				—				—				—		—	—
	20%		25%		30%		40%		50%		70%		75%		その他	合計
不動産関連向け	—		—		—		—		—		—		—		—	—
うち、自己居住用不動産等向け	—		—		—		—		—		—		—		—	—
	20%		31.25%		37.5%		50%		62.5%						その他	合計
うち、抵当権が第二順位以下で 適格要件をみたすもの	—		—		—		—		—						—	—
	30%		35%		45%		60%		75%		105%		150%		その他	合計
不動産関連向け	—		—		—		—		—		—		—		—	—
うち、賃貸用不動産向け	—		—		—		—		—		—		—		—	—
	30%		43.75%		56.25%		75%		93.75%						その他	合計
うち、抵当権が第二順位以下で 適格要件をみたすもの	—		—		—		—		—						—	—
	70%			90%			110%			150%			その他		合計	
不動産関連向け	—			—			—			—			—		—	—
うち、事業用不動産関連	—			—			—			—			—		—	—
	70%			112.50%											その他	合計
うち、抵当権が第二順位以下で 適格要件をみたすもの	—			—											—	—
	60%						その他						合計			
不動産関連向け	—						—						—		—	—
うち、その他不動産関連	—						—						—		—	—
	60%						その他						合計			
うち、抵当権が第二順位以下で 適格要件をみたすもの	—						—						—		—	—
	100%					150%					その他				合計	
不動産関連向け	—					—					—				—	—
うち、ADC向け	—					—					—				—	—
	50%				100%				150%				その他		合計	
延滞等 (自己居住用不動産等向け エクスポージャーを除く。)	—				—				—				—		—	—
自己居住用不動産等向け エクスポージャーに係る延滞	—				—				—				—		—	—
	0%				10%				20%				その他		合計	
現金	—				—				—				—		—	—
取立未済手形	—				—				—				—		—	—
信用保証協会等による保証付 株式会社地域経済活性化支 援機構等による保証付	—				—				—				—		—	—

※標準的手法が適用されるエクスポージャーのうち自己資本比率告示第55条から第76条までおよび第77条の2の規定に該当するエクスポージャーを計上しています。

Ⅲ. リスク・ウェイトの区分ごとのエクスポージャーの額

2022年度

(単位：百万円)

	信用リスク削減手法勘案前			信用リスク削減手法勘案後
	オン・バランス資産項目	CCF適用前の オフ・バランス資産項目	CCFの加重平均値	CCF適用後の エクスポージャーの額
40%未満	4,902,310	892,337	82.59%	5,598,503
40%～70%	924,474	120,705	11.50%	938,350
75%	313,918	27,325	18.05%	318,849
80%	10,042	—	—	10,042
85%	338,354	9,171	52.93%	343,208
90%～100%	452,828	27,044	37.46%	462,958
105%～130%	180,963	4,416	54.95%	183,390
150%	105,890	14,169	85.91%	118,063
250%	—	—	—	—
400%	—	—	—	—
1250%	—	—	—	—
合 計	7,228,780	1,095,170	71.71%	7,973,366

※自己資本比率告示第55条から第76条までおよび第77条の2の規定に該当するエクスポージャーを計上しています。

※CCFの加重平均値は、CCFを適用した後および信用リスク削減手法勘案前のオフ・バランス資産項目の額を、CCFを適用する前および信用リスク削減手法勘案前のオフ・バランス資産項目の額で除した割合です。

2023年度

(単位：百万円)

	信用リスク削減手法勘案前			信用リスク削減手法勘案後
	オン・バランス資産項目	CCF適用前の オフ・バランス資産項目	CCFの加重平均値	CCF適用後の エクスポージャーの額
40%未満	44	—	—	44
40%～70%	—	—	—	—
75%	—	—	—	—
80%	—	—	—	—
85%	—	—	—	—
90%～100%	28	—	—	28
105%～130%	—	—	—	—
150%	—	—	—	—
250%	—	—	—	—
400%	—	—	—	—
1250%	—	—	—	—
合 計	73	—	—	73

※標準的手法が適用されるエクスポージャーのうち自己資本比率告示第55条から第76条までおよび第77条の2の規定に該当するエクスポージャーを計上しています。

※CCFの加重平均値は、CCFを適用した後および信用リスク削減手法勘案前のオフ・バランス資産項目の額を、CCFを適用する前および信用リスク削減手法勘案前のオフ・バランス資産項目の額で除した割合です。

■スロッシング・クライテリアに割当てられた特定貸付債権についてリスク・ウェイトの区分ごとの残高

Ⅰ. プロジェクト・ファイナンス、オブジェクト・ファイナンス、コモディティ・ファイナンス、事業用不動産向け貸付け（単位：百万円）

			2023年度	
スロッシング・クライテリア	残存期間	リスク・ウェイトの区分	オン・バランス資産項目	オフ・バランス資産項目
優	2年半未満	50%	—	—
	2年半以上	70%	16,732	—
良	2年半未満	70%	110	684
	2年半以上	90%	22,144	443
可	—	115%	7,907	—
弱い	—	250%	35	—
デフォルト	—	0%	—	—
合 計			46,929	1,127

Ⅱ. ボラティリティの高い事業用不動産向け貸付け

（単位：百万円）

			2023年度	
スロッシング・クライテリア	残存期間	リスク・ウェイトの区分	オン・バランス資産項目	オフ・バランス資産項目
優	2年半未満	70%	—	—
	2年半以上	95%	—	—
良	2年半未満	95%	1,290	1,660
	2年半以上	120%	4,748	—
可	—	140%	—	—
弱い	—	250%	—	—
デフォルト	—	0%	—	—
合 計			6,038	1,660

■事業法人等向けエクスポージャーについて、格付ごとのパラメータの推計値およびリスク・ウェイト等

2023年度

（単位：百万円）

事業法人向け エクスポージャー	債務者区分等	PDの推計値の 加重平均値	LGDの推計値の 加重平均値	Eldefaultの推計値の 加重平均値	リスク・ウェイトの 加重平均値	EADの推計値		コミットメント	
						オン・バランス資産項目	オフ・バランス資産項目	未引当額	掛目の加重平均値
格付1～4	正常先	0.06%	40.34%		26.76%	457,751	12,836	15,857	40.00%
格付5～7	正常先	0.61%	35.47%		55.95%	775,250	36,502	4,161	40.00%
格付8	要注意先	7.76%	32.68%		111.88%	204,475	3,252	142	40.00%
格付9～12	要管理先以下	100.00%	35.01%	35.01%	0.00%	61,812	249	—	—
合 計						1,499,289	52,839	20,161	40.00%

2023年度

（単位：百万円）

ソブリン向け エクスポージャー	債務者区分等	PDの推計値の 加重平均値	LGDの推計値の 加重平均値	Eldefaultの推計値の 加重平均値	リスク・ウェイトの 加重平均値	EADの推計値		コミットメント	
						オン・バランス資産項目	オフ・バランス資産項目	未引当額	掛目の加重平均値
格付1～4	正常先	0.00%	44.99%		0.77%	4,923,625	17,556	—	—
格付5～7	正常先	0.31%	45.00%		48.91%	138	50	—	—
格付8	要注意先	—	—		—	—	—	—	—
格付9～12	要管理先以下	—	—		—	—	—	—	—
合 計						4,923,763	17,606	—	—

2023年度

（単位：百万円）

金融機関等向け エクスポージャー	債務者区分等	PDの推計値の 加重平均値	LGDの推計値の 加重平均値	Eldefaultの推計値の 加重平均値	リスク・ウェイトの 加重平均値	EADの推計値		コミットメント	
						オン・バランス資産項目	オフ・バランス資産項目	未引当額	掛目の加重平均値
格付1～4	正常先	0.05%	27.76%		8.23%	91,175	826,939	1,200	40.00%
格付5～7	正常先	0.31%	9.41%		8.28%	1,500	53,292	—	—
格付8	要注意先	—	—		—	—	—	—	—
格付9～12	要管理先以下	—	—		—	—	—	—	—
合 計						92,675	880,231	1,200	40.00%

※信用リスク・アセットの額については、基礎的内部格付手法により算出しています。

※事業法人向けエクスポージャーにはスロッシング・クライテリアで信用リスク・アセットを算出する特定貸付債権および購入債権は含んでいません。

※パラメータの推計値やリスク・ウェイトには、信用リスク削減手法の効果を勘案しています。

※リスク・ウェイトは、信用リスク・アセットの額をEADで除して算出しています。

■リテール向けエクスポージャーについてプール単位でのパラメータの推計値およびリスク・ウェイト等

2023年度

(単位：百万円)

資産区分等	PDの推計値 の加重平均値	LGDの推計値 の加重平均値	Eldefaultの 推計値の 加重平均値	リスク・ウェイト の加重平均値	EADの推計値		コミットメント	
					オン・バランス 資産項目	オフ・バランス 資産項目	未引当額	掛目の推計値 の加重平均値
居住用不動産向けエクスポージャー								
非延滞	0.35%	26.15%	—	13.73%	761,094			
延滞	16.97%	27.33%	—	130.54%	6,011			
デフォルト	100.00%	26.10%	20.62%	68.54%	6,985			
合 計	1.37%	26.16%	—	15.13%	774,092			
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー								
非延滞	1.07%	92.63%	—	32.48%	14,087	14,675	64,678	22.68%
延滞	22.49%	92.34%	—	229.91%	750	6	136	5.00%
デフォルト	100.00%	91.55%	72.89%	233.22%	131	11	223	5.00%
合 計	2.09%	92.62%	—	38.49%	14,969	14,693	65,038	22.59%
その他リテール向けエクスポージャー（事業性）								
非延滞	1.50%	35.89%	—	27.86%	79,373	519	278	106.29%
延滞	—	—	—	—	—	—	—	—
デフォルト	100.00%	38.85%	37.77%	13.54%	3,820	10	3	5.00%
合 計	6.01%	36.03%	—	27.21%	83,193	529	281	104.97%
その他リテール向けエクスポージャー（消費性）								
総合口座貸越	0.19%	0.00%	—	0.00%	4,277	—	—	—
非延滞	0.63%	80.90%	—	56.25%	39,979	541	979	55.31%
延滞	19.43%	82.27%	—	158.46%	421	2	0	5661.70%
デフォルト	100.00%	53.36%	43.18%	127.26%	224	—	—	—
合 計	1.25%	73.16%	—	52.26%	44,902	544	979	55.55%

※リスク・ウェイトは、信用リスク・アセットの額をEADで除して算出しています。

※購入債権は含んでいません。

※コミットメントにかかるEADの推計値は、コミットメント未引当額ではなく、コミットメント極度額に掛目を乗じて算出しています。

また、コミットメントの掛目の推計値の加重平均値は、コミットメントにかかるEADを未引当額で除算した逆算値を計上しており、オフ・バランス資産のEADの推計には使用していません。

■内部格付手法を適用する資産区分ごとの直前期における損失の実績値および当該実績値と過去の実績値との対比ならびに要因分析

(単位：百万円)

資産区分	ア 過去の損失の実績値 2022年度	イ 直前期の損失の実績値 2023年度	イーア 差額
事業法人向けエクスポージャー		25,715	
ソブリン向けエクスポージャー		—	
金融機関等向けエクスポージャー		—	
居住用不動産向けエクスポージャー		1,948	
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー		289	
その他リテール向けエクスポージャー		1,295	

※2023年9月末から基礎的内部格付手法を適用しているため、過去の実績値との対比ならびに要因分析は記載していません。

※損失とは直接償却、個別貸倒引当金（デフォルト債権の一般貸倒引当金を含む）、債権売却時の売却損等です。

※損失の実績値はふくぎん保証を含めて計上しています。

■内部格付手法を適用する資産区分ごとの長期にわたる損失額の推計値と実績値との対比

(単位：百万円)

資産区分	2023年度		
	損 失 額		
	ア 推計値 (2023/03時点)	イ 実績値 (2023/04～2024/03)	アーイ 差額
事業法人向けエクスポージャー		25,715	
ソブリン向けエクスポージャー		—	
金融機関等向けエクスポージャー		—	
居住用不動産向けエクスポージャー		1,948	
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー		289	
その他リテール向けエクスポージャー		1,295	

※2023年9月末から基礎的内部格付手法を適用しているため、2023年3月末時点の損失額の推計値は記載していません。

※「イ実績値」は【直近2半期分のフロー（償却とバルク売却損の合計値）+直近期末のストック（貸倒引当金）】により算出したものです。

※損失額はふくぎん保証を含めて計上しています。

■信用リスク削減手法に関する事項

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位：百万円)

	2022年度
現金および自行預金	246,222
金	—
債券	—
株式	890
投資信託	—
適格金融資産担保計	(注) 247,113
貸出金と自行預金の相殺	41,304
保証	173,608
クレジット・デリバティブ	—
保証、クレジット・デリバティブ計	173,608
合 計	462,025

※適格金融資産担保については、ボラティリティ調整率によるエクスポージャーの額の上方調整を行っている場合は、当該上方調整額に相当する額を減額しています。なお、ボラティリティ調整率とは、エクスポージャーまたは適格金融資産担保の価格変動リスクを勘案してエクスポージャーまたは適格金融資産担保の額を調整するための値のことです。

(注) SA-CCRを用いてデリバティブの与信相当額を算出する際に勘案した適格金融資産担保による信用リスク削減効果は含んでいません。

(単位：百万円)

	2023年度			
	適格金融資産担保 (注)	適格資産担保	保 証	クレジット・デリバティブ
信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額	407,794	325,181	220,452	—
内部格付手法が適用されるポートフォリオ	407,794	325,181	220,452	—
事業法人向けエクスポージャー	8,612	325,181	97,918	—
ソブリン向けエクスポージャー	1	—	10,475	—
金融機関等向けエクスポージャー	394,903	—	—	—
居住用不動産向けエクスポージャー	—	—	3,444	—
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	—	—	47,699	—
その他リテール向けエクスポージャー	4,277	—	60,914	—
標準的手法が適用されるポートフォリオ	—	—	—	—

※適格金融資産担保については、ボラティリティ調整率によるエクスポージャーの額の上方調整を行っている場合は、当該上方調整額に相当する額を減額しています。なお、ボラティリティ調整率とは、エクスポージャーまたは適格金融資産担保の価格変動リスクを勘案してエクスポージャーまたは適格金融資産担保の額を調整するための値のことです。

※貸出金と自行預金の相殺は含んでいません。

※適格金融資産担保の例としては、自行預金、国債、上場株式・債券等があります。また、適格資産担保の例としては不動産担保、船舶担保等があります。

(注) SA-CCRを用いてデリバティブの与信相当額を算出する際に勘案した適格金融資産担保による信用リスク削減効果は含んでいません。

■派生商品取引および長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度
I グロス再構築コストの合計額（マイナスの値は除く）	10,947	20,054
II 担保の種類別の額	6,322	9,043
適格金融資産担保（注）	6,322	9,043
III 信用リスク削減手法（担保）の効果勘案後の与信相当額	21,097	12,542
派生商品取引	21,097	12,542
長期決済期間取引	—	—
IV 与信相当額算出の対象となるクレジット・デリバティブの想定元本額	—	—
プロテクションの提供	—	—
プロテクションの購入	—	—
V 信用リスク削減手法の効果を勘案するために用いているクレジット・デリバティブの想定元本額	—	—

※与信相当額の算出には、SA-CCRを採用しています。

(注) 「適格金融資産担保」については、デリバティブ取引における受入担保の額を与信相当額削減効果の有無に関わらず全額計上しています。

■証券化エクスポージャーに関する事項

当行が投資家である証券化エクスポージャー

I. 保有する証券化エクスポージャーの額および主な原資産の種類別の内訳、リスク・ウェイトの区分ごとの残高および所要自己資本の額（単位：百万円）

	2022年度		2023年度	
	期末残高	所要自己資本の額（注）	期末残高	所要自己資本の額（注）
保有する証券化エクスポージャー	7,686		5,730	
(1) 主な原資産の種類別	7,686		5,730	
リース料	158		—	
消費者ローン	2,628		1,259	
住宅ローン	4,900		4,471	
(2) リスク・ウェイトの区分	7,686	61	5,730	91
20%以下	7,686	61	5,730	91
20%超50%以下	—	—	—	—
50%超100%以下	—	—	—	—
100%超1250%未満	—	—	—	—

※オフ・バランス取引はありません。

※再証券化エクスポージャーはありません。

(注) 所要自己資本の額は、次の算式に基づき算出しています。

2022年度：（信用リスク・アセットの額）×4%

2023年度：（信用リスク・アセットの額）×8%

II. 自己資本比率告示第248条ならびに第248条の4第1項第1号および第2号の規定により1250%のリスク・ウェイトが適用される証券化エクスポージャーの額および主な原資産の種類別内訳（単位：百万円）

	2022年度	2023年度
	期末残高	期末残高
リスク・ウェイト1250%が適用される証券化エクスポージャー	—	—

■CVAリスクに関する事項

(単位：百万円)

	2022年度		2023年度	
	構成要素の額	CVAリスク相当額	構成要素の額	CVAリスク相当額
CVAリスクのうち取引先共通の要素	3,068		2,278	
CVAリスクのうち取引先固有の要素	2,104		896	
合 計		1,548		896

※CVAリスク相当額の算出には、限定的なBA-CVAを採用しています。

■株式等エクスポージャーに関する事項

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度
貸借対照表計上額	55,731	73,059
上場している株式等エクスポージャー	41,185	57,138
非上場の株式等エクスポージャー	14,546	15,920
時価額	55,731	73,059
上場している株式等エクスポージャー	41,185	57,138
非上場の株式等エクスポージャー	14,546	15,920
売却および償却に伴う損益の額	294	172
売却損益額	605	
償却額	△311	
評価損益の額	18,098	32,855
貸借対照表上で認識され、損益計算書で認識されない額	18,098	32,855
貸借対照表上および損益計算書で認識されない額	—	—
株式等エクスポージャーのポートフォリオの区分ごとの額	55,731	73,059
投機的な非上場株式に対する投資に該当する株式等エクスポージャー	—	—
上記に該当しない株式等エクスポージャー	55,731	73,059

※上場している株式等エクスポージャーについて、株価と公正価値が大きく乖離したものはありません。

■信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーの額

信用リスク・アセットのみなし計算が適用される、いわゆるファンド（投資信託等の複数の資産を裏付けとする資産）の残高は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度
ルック・スルー方式（注1）	220,673	281,865
マンデート方式（注2）	—	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト:250%）（注3）	—	—
蓋然性方式（リスク・ウェイト:400%）（注4）	—	—
フォールバック方式（注5）	—	—
合 計	220,673	281,865

(注1) ファンド内の個々の組入資産の信用リスク・アセットの額を算出し、合算する方式です。

(注2) ファンドの運用基準（マンデート）に基づき、ファンド内の組入資産構成を保守的に仮定し、個々の資産の信用リスク・アセットの額を算出し、合算する方式です。

(注3) 組入資産の加重平均リスク・ウェイトが250%を下回る蓋然性が高いことを疎明できるときに限り、250%のリスク・ウェイトを適用し、信用リスク・アセットの額を算出する方式です。

(注4) 組入資産の加重平均リスク・ウェイトが400%を下回る蓋然性が高いことを疎明できるときに限り、400%のリスク・ウェイトを適用し、信用リスク・アセットの額を算出する方式です。

(注5) 上記いずれの方式も適用できない場合に、1250%のリスク・ウェイトを適用し、信用リスク・アセットの額を算出する方式です。

■金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

IRRBB 1:金利リスク

項番		イ	ロ	ハ	ニ
		ΔEVE (注1)		ΔNII (注1)	
		2022年度	2023年度	2022年度	2023年度
1	上方パラレルシフト	17,271	14,496	8,611	21,088
2	下方パラレルシフト	8,874	17,748	5,214	△7,852
3	スティープ化	7,824	6,458		
4	フラット化				
5	短期金利上昇				
6	短期金利低下				
7	最大値 (注2)	17,271	17,748	8,611	21,088
		ホ		ヘ	
		2022年度		2023年度	
		245,413		217,427	
8	自己資本の額				

IRRBB 2:為替リスク

項番		イ	ロ	ハ	ニ
		ΔEVE (注1)		ΔNII (注1)	
		2022年度	2023年度	2022年度	2023年度
1	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
2	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
3	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
4	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
5	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
6	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
7	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
8	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
9	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
10	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
11	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
12	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
13	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
14	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
15	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
16	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
17	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
18	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
19	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
20	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
21	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
22	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
23	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
24	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
25	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
26	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
27	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
28	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
29	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
30	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
31	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
32	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
33	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
34	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
35	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
36	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
37	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
38	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
39	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
40	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
41	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
42	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
43	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
44	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
45	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
46	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
47	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
48	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
49	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
50	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
51	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
52	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
53	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
54	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
55	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
56	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
57	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
58	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
59	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
60	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
61	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
62	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
63	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
64	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
65	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
66	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
67	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
68	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
69	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
70	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
71	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
72	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
73	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
74	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
75	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
76	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
77	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
78	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
79	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
80	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
81	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
82	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
83	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
84	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
85	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
86	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
87	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
88	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
89	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
90	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
91	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
92	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
93	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
94	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
95	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
96	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
97	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
98	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
99	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
100	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
101	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
102	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
103	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
104	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
105	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
106	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
107	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
108	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
109	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
110	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
111	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
112	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
113	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
114	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
115	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
116	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
117	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
118	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
119	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
120	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
121	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
122	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
123	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
124	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
125	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
126	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
127	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
128	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
129	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
130	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
131	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
132	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
133	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
134	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
135	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
136	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
137	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
138	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
139	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
140	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
141	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
142	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
143	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
144	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
145	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
146	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
147	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
148	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
149	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
150	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
151	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
152	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
153	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
154	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
155	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
156	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
157	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
158	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
159	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
160	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
161	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
162	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
163	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
164	円安シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
165	円高シフト	1,000	1,000	1,000	1,000
166	円安シフト	1,000	1,000	1,000</	

※ΔEVEおよびΔNIIの計測にあたり、キャッシュ・フローにはクレジット・スプレッドを含めていますが、割引金利にはクレジット・スプレッドを含めていません。

※ΔEVEの計測にあたり、コア預金内部モデルを使用して流動性預金に金利改定の満期を割り当てており、流動性預金に割り当てられた金利改定の平均満期は3.218年、最長の金利改定満期は10年です。コア預金内部モデルは、流動性預金残高について、金利水準や顧客属性等との関係を基にしてモデル化しております。

※ΔEVEおよびΔNIIの計測にあたり、固定金利貸出の期限前償還および定期預金の早期解約については、金融庁が定める保守的な前提を採用しております。

※ΔEVEについては全ての通貨を対象とし、通貨毎に算出された経済価値の減少額を単純合算して算出しております。なお、通貨間の相関は考慮しておりません。

※ΔNIIについては全ての通貨を対象とし、通貨毎に算出された期間収益の変動額を単純合算して算出しております。なお、通貨間の相関は考慮しておりません。

(注1) 金融庁の開示定義に従い、ΔEVEのプラス表示は経済価値の減少、ΔNIIのプラス表示は期間収益の減少を表しています。

(注2) ΔEVEの最大値の自己資本に占める割合は監督上の基準値である20%以内に収まっており、問題ない水準となっています。

■内部格付手法と標準的手法の比較に関する事項

Ⅰ. 信用リスクに関する事項

(単位：百万円)

	2023年度			
	イ	ロ	ハ	ニ
	内部格付手法適用分の信用リスク・アセットの額	イ欄の内部格付手法適用分の信用リスク・アセットの額について、標準的手法により算出した信用リスク・アセットの額	信用リスク・アセットの額	資本フロア計算に用いられる、標準的手法により算出した信用リスク・アセットの額（フロア掛目前）
事業法人向けエクスポージャー (中堅中小企業向けエクスポージャーおよび特定貸付債権を除く。)	403,301	646,928	403,329	646,956
うち、基礎的内部格付手法適用分	403,301		403,301	
中堅中小企業向けエクスポージャー	405,334	607,418	405,334	607,418
うち、基礎的内部格付手法適用分	405,334		405,334	
ソブリン向けエクスポージャー	38,350	31,505	38,350	31,505
うち、我が国の地方公共団体向け	32	—	32	—
うち、外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—
うち、国際開発銀行向け	—	—	—	—
うち、地方公共団体金融機構向け	64	100	64	100
うち、我が国の政府関係機関向け	20,809	10,440	20,809	10,440
うち、地方三公社向け	59	27	59	27
金融機関等向けエクスポージャー	80,134	145,492	80,147	145,506
居住用不動産向けエクスポージャー	117,157	465,449	117,157	465,449
適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー	11,418	14,520	11,418	14,520
その他リテール向けエクスポージャー	46,532	96,261	46,532	96,261
株式等エクスポージャー	—	—	100,272	52,240
特定貸付債権	54,207	62,859	54,207	62,859
うち、事業用不動産向け貸付け およびボラティリティの高い事業用不動産向け貸付け	37,138	43,417	37,138	43,417
購入債権	40,683	40,409	40,683	40,409
合 計	1,197,118	2,110,847	1,297,432	2,163,129

※信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーおよび証券化エクスポージャーは含んでいません。

Ⅱ. 証券化エクスポージャーに関する事項

(単位：百万円)

	2023年度	
	信用リスク・アセットの額	銀行を標準的手法採用行とみなして算出した信用リスク・アセットの額
証券化エクスポージャー	1,137	1,137

※標準的手法が適用されるポートフォリオについて、内部格付手法のポートフォリオに分類する場合の基準は下表のとおりです。

標準的手法が適用されるポートフォリオ	内部格付手法のポートフォリオ
日本国政府および日本銀行向け	ソブリン向けエクスポージャー
中央政府および中央銀行向け	ソブリン向けエクスポージャー
国際決済銀行等向け	ソブリン向けエクスポージャー
我が国の地方公共団体向け	ソブリン向けエクスポージャー
外国の中央政府等以外の公共部門向け	ソブリン向けエクスポージャー
国際開発銀行向け	ソブリン向けエクスポージャー
地方公共団体金融機構向け	ソブリン向けエクスポージャー
我が国の政府関係機関向け	ソブリン向けエクスポージャー
地方三公社向け	ソブリン向けエクスポージャー
金融機関向け	金融機関等向けエクスポージャー
カバード・ボンド向け	金融機関等向けエクスポージャー
第一種金融商品取引業者向け	金融機関等向けエクスポージャー
保険会社向け	金融機関等向けエクスポージャー
法人等向け	事業法人向けエクスポージャー（中堅中小企業向けエクスポージャーおよび特定貸付債権を除く。）
中堅中小企業向け	中堅中小企業向けエクスポージャー
特定貸付債権向け	特定貸付債権
適格中堅中小企業等向け	その他リテール向けエクスポージャー
適格個人向け	その他リテール向けエクスポージャー
その他個人向け	事業法人向けエクスポージャー（中堅中小企業向けエクスポージャーおよび特定貸付債権を除く。）
自己居住用不動産等向け	居住用不動産向けエクスポージャー
賃貸用不動産向け	事業法人向けエクスポージャー（中堅中小企業向けエクスポージャーおよび特定貸付債権を除く。）
事業用不動産関連向け	事業法人向けエクスポージャー（中堅中小企業向けエクスポージャーおよび特定貸付債権を除く。）
その他不動産関連向け	事業法人向けエクスポージャー（中堅中小企業向けエクスポージャーおよび特定貸付債権を除く。）
ADC向け	特定貸付債権
取立未済手形	金融機関等向けエクスポージャー
信用保証協会等による保証付	ソブリン向けエクスポージャー
株式および株式と同質の性質を有するもの	株式等エクスポージャー

※内部格付手法のポートフォリオのうち以下のポートフォリオには分類いたしません。

適格リボルビング型リテール向けエクスポージャー、購入債権、特定貸付債権のうち事業用不動産向け貸付けおよびボラティリティの高い事業用不動産向け貸付け

1.当行の対象役職員の報酬等に関する組織体制の整備状況に関する事項

(1)「対象役職員」の範囲

開示の対象となる報酬告示に規定されている「対象役員」および「対象従業員等」（合わせて「対象役職員」）の範囲については、以下のとおりです。

①「対象役員」の範囲

当行の取締役（社外取締役を除く）を対象としております。なお、期中の就任者および退任者を含みます。

②「対象従業員等」の範囲

対象役員以外の当行の役員および従業員のうち、「高額の報酬等を受ける者（ア）」で、「当行の業務の運営または財産の状況に重要な影響を与える者（イ）」等を対象としております。

なお、当行の対象役員以外の役員および従業員で、対象従業員等に該当する者はおりません。

（ア）「高額の報酬等を受ける者」の範囲

「対象役員の報酬の総額」を「対象役員の員数」により除すことで算出される「対象役員の平均報酬額」以上の報酬等を受ける者を指します。

なお、退職一時金については全額を報酬等の金額から一旦控除し、「退職一時金を在職年数で除した金額」を足し戻した金額を報酬等の金額とみなして判断しております。

（イ）「当行の業務の運営または財産の状況に重要な影響を与える者」の範囲

その者が通常行う取引や管理する事項が、当行の業務の運営に相当程度の影響を与え、または取引等に損失が発生することにより財産の状況に重要な影響を与える者を指します。

(2) 対象役職員の報酬等の決定について

当事業年度における当行の取締役（監査等委員である取締役を除く）の報酬等については、以下の方針に基づき決定しております。

【基本方針】

当行の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬については、株主総会で決議された取締役全員の報酬総額の範囲内で、FFGコーポレートガバナンス・ガイドライン第10条を踏まえた以下の「取締役等の報酬の決定方針」に基づき決定する。

～取締役等の報酬の決定方針～

- (1) 取締役等の報酬の体系は、持続的な成長に向けた健全なインセンティブとして機能するように適切に設定する。
- (2) 取締役等の報酬は、当行の中長期的な業績、経済および社会の情勢等を踏まえ、各取締役および各執行役員が果たすべき役割・責務を総合的に勘案して決定する。
- (3) 取締役等の報酬は、取締役会の諮問を受けたグループ報酬諮問委員会が本条の方針に基づき審議し、取締役会がその審議結果を尊重して決定する。

【基本方針に基づく具体的な方針】

- (1) 個人別の報酬等（業績連動報酬等および非金銭報酬等を除く。）の額またはその算定方法の決定に関する方針（報酬を与える時期または条件の決定に関する方針を含む。）
 - ・個人別の基本報酬は、毎月固定額を支給する固定報酬とする。
 - ・当該基本報酬については、取締役会の諮問を受けたグループ報酬諮問委員会が「取締役等の報酬の決定方針」に基づき審議し、取締役会がその審議結果を尊重して決定した役員報酬体系に基づき支給する。
- (2) 業績連動報酬等および非金銭報酬等の内容および額または数の算定方法の決定に関する方針（報酬を与える時期または条件の決定に関する方針を含む。）
 - ・基本報酬に加え、経営責任の明確化および企業価値向上へのインセンティブの観点から、取締役（非業務執行取締役を除く。）に対して、当行の当期純利益水準を指標とした業績連動報酬である金銭報酬および株式報酬を支給する。業績連動報酬のうち金銭報酬は、毎年一定の時期に支給することとし、株式報酬は、毎年一定の時期に、当行の当期純利益水準に連動するポイントを付与し、当行の取締役（監査等委員である取締役を含む。）および執行役員のいずれの役職からも退任後、在任期間に付与したポイントの累積値に応じた親会社株式等を交付する。
 - ・当該業績連動報酬である金銭報酬および株式報酬については、取締役会の諮問を受けたグループ報酬諮問委員会が「取締役等の報酬の決定方針」に基づき審議し、取締役会がその審議結果を尊重して決定した役員報酬体系に基づき支給する。
- (3) 固定報酬、業績連動報酬等および非金銭報酬等の額の個人別の報酬等の額に対する割合の決定に関する方針
 - ・個人別の報酬は、基本報酬、業績連動報酬である金銭報酬および株式報酬の合計額とし、個人別の報酬における各報酬の割合を含む報酬体系は、「取締役等の報酬の決定方針」に基づき、持続的な成長に向けた健全なインセンティブとして機能するように適切に設定する。

(4) 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方法

- ・取締役の個人別の報酬等の内容については、取締役会の諮問を受けたグループ報酬諮問委員会が「取締役等の報酬の決定方針」に基づき審議し、取締役会がその審議結果を尊重して決定した役員報酬体系に基づき決定する。

取締役（監査等委員である取締役を除く）の報酬については、株主総会で決議された取締役全員の報酬総額の範囲内で、取締役会の諮問を受けたFFGグループ報酬諮問委員会が「取締役等の報酬の決定方針」に基づき審議し、取締役会がその審議結果を尊重して決定します。

監査等委員である取締役の報酬については、株主総会で決議された監査等委員である取締役全員の報酬総額の範囲内で、監査等委員会の協議により決定します。

(3) 報酬委員会等の構成員に対して払われた報酬等の総額および報酬委員会等の会議の開催回数

	開催回数 (2023年4月～ 2024年3月)	報酬等の総額
取締役会	1回	—

当事業年度の当行役員の報酬等の額に関しては、2022年3月10日開催のFFGグループ報酬諮問委員会が取締役会の諮問を受けて審議し、その審議結果を尊重して2022年5月13日開催の取締役会にて決定した役員報酬体系に基づいて支給しております。

(注) 報酬等の総額については、報酬委員会等の職務執行に係る対価に相当する部分のみを切り離して算出することができないため、報酬等の総額は記載しておりません。

2.当行の対象役職員の報酬等の体系の設計および運用の適切性の評価に関する事項

●報酬等に関する方針について

「対象役員」の報酬等に関する方針

当行は、取締役会の決議により、取締役（監査等委員である取締役を除く）の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を定めております。当事業年度の当行役員の報酬等を決定するにあたっての当該方針の内容は1. (2)に記載のとおりです。

3.当行の対象役職員の報酬等の体系とリスク管理の整合性に関する事項、および当行の対象役職員の報酬等と業績の連動に関する事項

対象役員の報酬等の決定に当たっては、株主総会で役員全体の報酬総額が決議され、決定される仕組みになっております。

●対象役職員の報酬等の決定における業績連動部分について

業績連動部分の算出方法について

当行の取締役（監査等委員である取締役を除く）に対しては、当期純利益水準を指標とする業績連動報酬を導入しております。

4.当行の対象役職員の報酬等の種類、支払総額および支払方法に関する事項

対象役員の報酬等の総額（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

区分	人数 (人)	報酬等の 総額 (百万円)	固定報酬の総額		
				基本報酬	株式報酬型 ストック オプション
対象役員 (社外役員を除く)	7	209	188	188	—
対象従業員	—	—	—	—	—

区分		変動報酬の総額			退職 慰労金
		基本報酬	賞与	その他	
対象役員 (社外役員を除く)	20	—	—	20	—
対象従業員	—	—	—	—	—

(注) 変動報酬の「その他」には、業績連動報酬の合計を記載しております。

5.当行の対象役職員の報酬等の体系に関し、その他参考となるべき事項

特段、前項までに掲げたもののほか、該当する事項はありません。